たぐえてゆかん

－学習の手引き－

令和４年(2022 年)度

長野県伊那北高等学校

２学年

伊那北高校グランドデザイン

Ⅰ　教育課程と学習について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　伊那北高校進路ストーリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅲ　真剣に進路について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
1　「進路」ってなんだ？
2　勉強と情報収集　　～進路決定における２大課題～
3　志望校選択のポイント
4　進路決定の参考となるもの
5　合格するために

Ⅳ　入試システム解説
1　大学入学共通テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
2　国公立大学入試のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
3　私立大学入試のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
4　小論文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
5　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

Ⅴ　教科・科目別学習法アドバイス
1　国語 <P.14>
2　数学 <P.19>
3　英語 <P.25>
4　日本史 B <P.31>
5　地理 B <P.33>
6　倫理 <P.35>
7　物理 <P.37>
8　化学 <P.42>
9　生物 <P.44>
10　地学基礎 <P.46>
11　理科探究 <P.47>
12　保健体育 <P.48>
13　音楽 <P.52>
14　美術 <P.53>
15　情報 <P.56>
16　総合的な探究の時間 <P.57>
17　課題研究 <P.58>

「たぐえてゆかむ」長野県伊那北高等学校のグランドデザイン

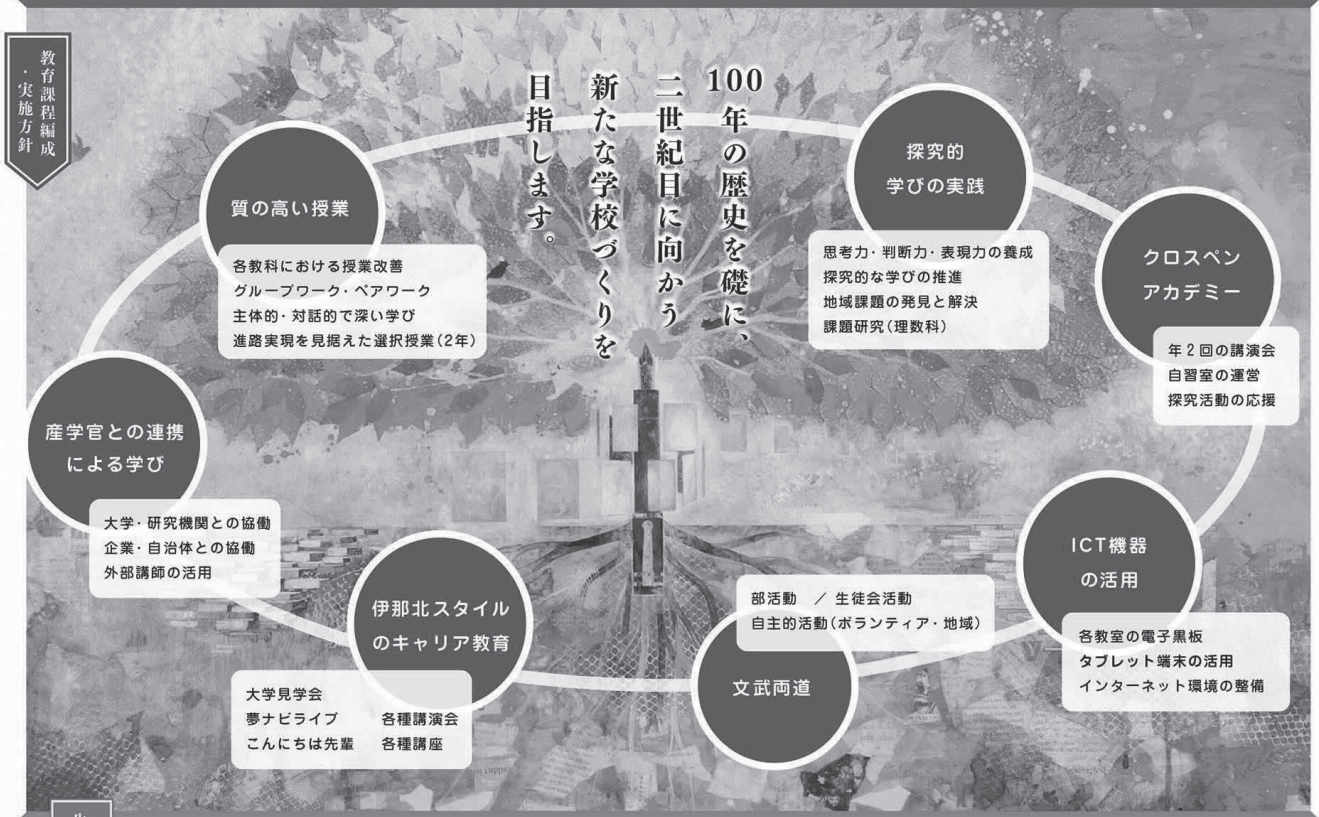
学校教育目標

❶平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。
❷躍如として学業にいそしむ。
❸自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。
❹自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。

育てたい生徒像

生徒育成方針

★広い視野と柔軟な発想力を持ち、社会を広義にイノベーション（刷新）できる生徒。
★たくましい精神力と豊かな人間性、本物の知性を備えた社会をリードする生徒。
★探究心を持ち、自ら考え自ら行動するとともに、他者と協働する力を持つ生徒。
★社会の中で自己有用感を持ち、世界、地域での役割を自覚できる生徒。
★地域で必要とされる人材、世界で必要とされる人材を目標とする生徒。



充実した学習活動

教育課程編成・実施方針

進路実現のためのカリキュラム

★「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、PDCAサイクルを活用した授業改善。
★ICTの効果的な活用と主体性、協働性などの学ぶ姿勢の涵養。
★探究心を高めるために、感性を磨き「豊かな人間性」を育む課題発見から解決に向けた学習活動。
★医学・医療、理工、人文社会、芸術、教員養成など様々な分野に関する産官学、高大中と連携した学び。
★地域への理解を深め、グローバルな視点で社会に貢献していく力を育てる地域と連携した学び。

生徒募集方針

伊那北高校での3年間を充実させたいと考えている次のような生徒諸君を待っています。

●自己実現、進路実現のために大学進学を考えている生徒
●様々なことに興味、関心を抱き、追求しようとする姿勢のある生徒
●将来、地域のリーダーを目指したい、日本・世界で活躍したいと考えている生徒
●他者と協働しながら主体的に物事に取り組みたいと考えている生徒
●学習以外にも熱心に取り組みたいものがある生徒
●自然科学に高い関心があり、大学の理学部、工学部、医学部、薬学部、農学部などで学び、この方面で活躍したいと考えている生徒（理数科）

Ⅰ　教育課程と学習について

（１）教育課程とは

高等学校で学ぶ教育内容には、教科・科目の学習活動、総合的な探究の時間（理数科は課題研究で代替）、クラブやホームルーム等の特別活動があります。

教育課程とは、教育関係諸法令や本校の教育目標・指導内容に従いその目的を達成する為に、皆さんの心身の発達に応じ、学ぶ順序や授業時間数・単位数を定めたものです。

（２）学習の評価と単位の履修、修得

ア.　「単位」とは

50分間の授業が１年間に35回行われる事を１単位と言います。従って時間割の中で１年間に学ぶ教科・科目の総単位数（総合的な探究の時間・課題研究２単位，ホームルーム活動１単位を含む）は35単位ですから、皆さんが１年間に学ぶ教科学習の総時間は、50分×35回×35単位=61,250分(約1021時間:約42.５日分)です。本校ではこの総時間を55分授業によって学んでいく事になります。

高等学校で学ぶ内容や学習量からみて、この時間数だけで理解し習熟する事は困難です。しかし、学校で学ぶ時間をこれ以上多くする事は物理的にも出来ません。

従って、教育課程は皆さんが自主的・計画的な自宅学習をして学校での学習時間の不足を補充してくれる事を前提としています。

イ.　「履修」とは

全ての高校生が基礎教養として必ず学ばなければならないと定められた科目を、必履修科目と言います。この必履修科目を含め本校では別表の通り、３年間で100単位を履修します。（普通科の「総合的な探究の時間」3単位，ホームルーム活動３単位を含む）

各科目について、年間授業時間数の3/4以上出席し、且つ積極的に学習活動に参加したと認められた時、その科目を「履修」したと認定されます。

出席時間数が少なかったり、学習活動が不十分と判断され、その科目の履修が認められなかった場合は、再度履修しなければなりません。この場合、３年間での卒業は困難となります。従ってどの教科についても全て履修を認定される様に、授業の欠席や遅刻をしない様にし、更に学習活動にも積極的に取り組まなければなりません。健康に留意し規則正しい学校生活が出来る様に心掛けて下さい。

ウ.　学習の「評価」

学習成績は、定期考査や課題テストの結果と日常の学習活動(提出すべき課題・レポート等)を総合して評価されます。

各教科・科目の学習目標に従い、評価は「５段階」により示されます。
その結果は、科目毎の評価状況を示す度数分布を添えて、各学期末に本人と家庭に通知しますので、評価の結果を謙虚に受け止め、次の学習への励みとしましょう。

エ.　単位の「修得」と進級・卒業

学年末に、各教科・科目について履修したと認められ且つその教科・科目の定めた目標に到達していると評価されると、その科目の単位を「修得」したと認定されます。

各学年で学ぶべき教科・科目について、本校で定めた単位数以上の単位の修得が認められて卒業となります。

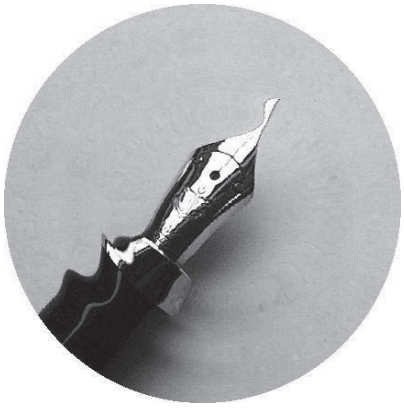
出席時間数の不足や不十分な学習活動等で単位の「履修」「修得」を認められない科目があると、３年間での卒業は困難となります。ですから日常の学習活動に真剣に取り組み、単に本校の卒業を目指すだけでなく、所期の目標を達成する努力をして下さい。

（３）普通科の教育課程について

調和のとれた人格の陶冶と、目標意識を持って自ら学ぶ意欲を高め主体的に学習にとり組み、個性や能力を伸ばす事を願って、別表の様に２・３学年に選択科目を用意しました。

選択科目の履修については、大学等の入学試験科目との関連から、明確な進路目標に基づいた選択科目の決定を、皆さんは求められます。

３学年で学ぶ選択科目は、文系希望者で14単位、理系希望者で８単位です。将来を見据え、進路志望に合った科目を選択しましょう。３学年で履修する選択科目を決定する時期は、今年の８月末です。その為には、今から自分の進むべき道を定め、目標を明確にする様に心掛けて下さい。先生方との懇談は夏休み前後から始まります。



普通科

教 育 課 程 表

（令和３年度入学生適用）

学校番号　58　　伊那北高等学校　全日制　普通科

	教科	科目	標準単位数	1年	2年			3年				合計	備考
				必修	A	選択	B	A	選択	B	選択		
各学科に共通する各教科・科目	国語	国語総合	4	5								5	
		現代文A	2						2		2	2	
		現代文B	4		2		2	2		2		4	
		古典A	2						2		2	2	
		古典B	4		3		3	3		2		5,6	
	地理歴史	世界史B	4	3								3	
		日本史B	4		3 ┐③		3 ┐③					3	
		地理B	4		3 ┘		3 ┘					3	
		＊世界史探究						3 ┐	4 ┐	3		3,4	
		＊日本史探究						3 ③ ┘	4 ④ ┘	3		3,4	
		＊地理探究						3 ┘	4 ┘	3		3,4	
	公民	現代社会	2	2								2	
		倫理	2			2					③	2	
		政治・経済	2						2	2 ┐		2	
		＊倫理探究							2			2	
		＊政治・経済探究								1 ┘		1	
	数学	数学Ⅰ	3	3								3	
		数学Ⅱ	4	1	4		4					5	
		数学Ⅲ	5								5	5	
		数学A	2	2								2	
		数学B	2		2		2					2	
		＊数学研究Ⅰ							3,4		4	3,4	
		＊数学研究Ⅱ							3		3,4	3,4	
	理科	物理基礎	2				2					2	
		化学基礎	2	2								2	
		生物基礎	2	2								2	
		地学基礎	2		2							2	
		物理	4				2 ┐②			3 ┐③		5	
		化学	4				2 ┘			3 ┘		5	
		生物	4				2 ┘			3 ┘		5	
		＊理科探究			2							2	
		＊化学探究							2 ┐			2	
		＊生物探究							2 ┘④			2	
		＊地学探究							2 ┘			2	
	保健体育	体育	7～8	2	3		3	2		3		7,8	
		保健	2	1	1		1					2	
	芸術	音楽Ⅰ	2	2 ┐		2 ┐			2 ┐		2 ┐	2	2年次に選択するⅠを付した科目は、1年次履修していないものとする。同様に3年次の選択においても履修した科目の再履修は出来ない。
		音楽Ⅱ	2	┘②		2 ┘			2 ┘		2 ┘	2	
		音楽Ⅲ	2						2 ┘		2 ┘	2	
		美術Ⅰ	2	2 ┘		2 ┐②			2 ┐②		2 ┐②	2	
		美術Ⅱ	2			2 ┘			2 ┘		2 ┘	2	
		美術Ⅲ	2						2 ┘		2 ┘	2	
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3								3	
		コミュニケーション英語Ⅱ	4		4		4					4	
		コミュニケーション英語Ⅲ	4					4		4		4	
		英語表現Ⅰ	2	2								2	
		英語表現Ⅱ	4		2		2	2		2		4	
		英語会話	2						2			2	
		＊英語総合				2						2	
		＊英語探究							2		2	2	
		＊プラクティカル・ライティング							2			2	
	家庭	家庭基礎	2	2								2	
		＊ライフデザイン							2		2	2	
	情報	情報の科学	2		2		2					2	
各教科・科目の単位数計				32	30	2	32	16	14	22	8	94	
［総合的な探究の時間］			3～6	1	2							3	
ホームルーム活動			3	1	1			1				3	

注1　＊は学校設定科目。　注2　Aは文系必修・Bは理系必修。　注3　2年次の「物理」においては「物理基礎」履修後に履修する。

（４）理数科の教育課程について

理数科の設置にあたり、次の教育目標・指導方針を定めました。

ア.　「理数科の教育目標」

自然科学や数学に興味・関心を持ち、且つその分野に優れた資質・能力を有する生徒に対して、科学的に思考し創造する能力と態度を養う為、計画的・組織的な教育を行う。

イ.　「理数科の学習方針」

1)　調和のとれた豊かな人間形成を目指す。
2)　自分の資質・能力を引き出し、更に高める。
3)　地域の信頼に応え、社会に貢献出来る人物となる事を目指す。

この教育目標・学習方針に従い、別表の様な教育課程が定められました。選択科目はありませんが、既に理数科で学びたいという目的意識を持った皆さんには十分対応出来ると思います。また専門科目(数学・理科)以外の教科の単位数が普通科とほぼ同様なのは、調和のとれた豊かな人間形成を願い、特定の教科・科目に偏らない幅広い教養を培って欲しいとの願いからです。

ウ.　専門教科・科目について

理数科の専門教科・科目(数学・理科)の教科書は発行されていないので、普通科と同じ種類の教科書を用います。数学、理科の授業時間数が普通科よりも多い分は、実験・実習・演習等で内容を深めます。また教科書の記述を越えた内容について参考書、問題集、プリント等で補いながら授業が進められます。

さらに授業時間や放課後の時間等を利用して「課題研究」に取り組みます。課題研究は、数学・理科の分野から課題を選び、自らその課題に基づいて調査、研究等を行います。また、その成果の発表会も行なわれます。（１年次１単位、２年次２単位）

理数科　　**教　育　課　程　表**　　（令和３年度入学生適用）

学校番号		58	伊那北高等学校　全日制　理数科					
	教　科	科　目	標　準 単位数	１年 必修	２年 必修	３年 必修	合計	備考
各学科に共通する各教科・科目	国語	国語総合	4	5			5	
		現代文Ｂ	4		2	2	4	
		古　典Ｂ	4		2	2	4	
	地理歴史	世界史Ａ	2	2			2	
		世界史Ｂ	4			3	3	
		日本史Ｂ	4		3 ③		3	
		地 理 Ｂ	4		3	③	3	
		＊日本史探究				3	3	
		＊地理探究				3	3	
	公　民	現代社会	2	2			2	
		倫理	2					
		政治・経済	2			2	2	
		＊政治･経済探究				1	1	
	保健体育	体　育	7～8	2	2	3	7	
		保　健	2	1	1		2	
	芸　術	音楽Ⅰ	2	2 ②			2	
		美術Ⅰ	2	2			2	
	外国語	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ	3	3			3	
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ	4		4		4	
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ	4			4	4	
		英語表現Ⅰ	2	2			2	
		英語表現Ⅱ	4		2	2	4	
	家　庭	家庭基礎	2	2			2	
	情　報	情報の科学	2	1	1		2	
普通教科・科目の単位数計				22	17	16	55	
主として専門学科において開設される各教科・科目	[理数]	理数数学Ⅰ	4～8	6			6	
		理数数学Ⅱ	7～14		7	3	10	
		理数数学特論	2～6			5	5	
		理数物理	3～10		4	3 ③	4,7	
		理数化学	3～10	4		3	7	
		理数生物	3～10		4	3	4,7	
		課題研究	1～6	1	2		3	
専門教科・科目の単位数計				11	17	14	42	
各教科・科目の単位数計				33	34	30	97	
[総合的な探究の時間]			3～6					
ホームルーム活動			3	1	1	1	3	

注１＊は学校設定科目。

注2「総合的な探究の時間」については専門学科［理数］の科目である「課題研究」で代替。

Ⅱ　伊那北高校進路ストーリー

伊那北高校の進路学習は以下の計画に沿って進められます。1年次に考えた自分の進路に関することを振り返りながら、今後の見通しを立てていきましょう。

（1）　3年間の概要

時期		到達目標	概要
1学年	4～7月	学問分野・仕事を知る	大学にはどのような学問分野があるのか、大学での学びや研究がどのような仕事につながるのかなどを調べ、興味関心のある分野を探す。
	夏休み	自分の興味・関心を発見する	オープンキャンパスに参加し、大学の雰囲気、研究設備、カリキュラムなどを知る。そこから、自分の進みたい学問分野について考える。
	8～12月	学部レベルで進路選択する	興味のある学問分野に進み、進学したい学部・学科を受験するために、高校でどの教科を学ぶ必要があるかを調べる。文理を選択する。
	1～3月	大学研究のやり方を知る	志望の学部・学科の入試情報や進学したい大学の情報の集め方を知る。
	春休み	大学や社会が求める人物像を知る	進学したい学部・学科が求める人物像や必要とされる能力、知識を調べる。
2学年	4～7月	志望校を見つける	1月からの大学研究を踏まえ、自分が進学してみたいと思う大学・学部・学科を探す。
	夏休み	志望校を見にいく	進学してみたい大学のオープンキャンパスに参加し、大学の特徴や雰囲気を確かめる。
	8～12月	志望校を決める	志望校・学部・学科を決め、入試に必要な科目を調べ、3年次選択科目を決める。
	1～3月	受験準備をする	志望校に合格に向かうべく、学習に集中し3年生0学期としての意識をもつ。
	春休み	入試制度を知る	受験計画を立てるために、志望校の入試制度を調べる。
3学年	4～7月	受験計画を立てる	どの入試制度を使って受験するのか、どの教科が入試に必要かを調べ、自分の受験計画を立てる。
	夏休み	受験に向けて学習する	受験前最後の長期休業を利用し、自らの課題を設定し、学習に集中する。
	8～12月	受験計画の見直し	自分の学力レベルに合わせて、志望校や入試制度について考え直す。
	1月	出願校を決める	大学入学共通テストを受験し、出願校を決める。

自分の進路段階を確認しよう

上の表は3年間の進路計画の概要を示しています。この表を見て、今の時期に進路学習の段階がどこまで進んでいるべきか確認しましょう。また、自分の進路段階がどこにいるのかも確認しましょう。

揺るぎない基礎学力を身につけよう

君たちが受験する大学入学共通テストの問題の7割は1，2年生の分野から出題されます。1，2年生が勝負です。高い志望を叶えるには、まずは基礎固めからです。

（2） ２学年の詳細

月	目 標 〔行 事〕	Ｈ Ｒ・考 査・進路行事 等	メ ッ セ ー ジ
4	学習習慣の構築 〔春期クラスマッチ〕	課題テスト 第１回進路希望調査	学習方法を見つめなおそう １年間の目標を決めよう
5	部活と学習の両立 〔高校総体〕	面接週間 大学調べ	職業適性について考えよう 進学したい学部・学科について考えよう
6	文化祭への積極参加 〔ペン祭〕	第１回考査	定期考査の振り返りをしよう 高校生らしい文化祭づくりに挑戦しよう
7	学習方法の点検改善	進研模試7月 夢ナビライブオンライン 三者懇談・成績下位者の補習	切り替えの気持ちを意識的に持とう 自分の興味関心はどこにあるのかを知ろう 模試の振り返り癖をつけよう
夏休	規則正しい生活 不得意科目の克服	大学見学会〈希望者〉 オープンキャンパス	計画を立てて規則正しい生活をしよう 自分の苦手科目、苦手分野を克服しよう 進学したい学部･学科のオープンキャンパスに参加しよう
8	生活リズムの再点検	課題テスト	入学時の心境にもう一度戻ろう！ 家庭学習の習慣の再確立
9	自己理解と進路研究 〔合唱コンクール〕 〔秋期クラスマッチ〕	第２回考査 第２回進路希望調査 ３年次選択科目希望調査	進学したい学部・学科を決め、3年次の選択科目について考えよう
10	選択科目の決定 〔強歩大会〕	面接週間 駿台模試〈希望者〉	自己理解を深めよう 選択科目を見極めよう
11	研修旅行への参加 〔高校新人戦〕 〔研修旅行〕	進研模試11月 第３回考査 東大見学会	落ちついて学習に取り組もう 部活動との両立を実現させよう 研修旅行を通じて将来について考えよう
12	３年生０学期		受験生であることの自覚をもち､学習に向かう姿勢を確立しよう 気候変化に合った体調の自己管理を考えよう
冬休	１年の反省・新年の決意		課題テストに向けて計画的な学習をしよう
1	大学入試の概略理解 志望校宣言	課題テスト 全統模試 共通テストチャレンジ	大学入学共通テストの概要を知ろう 志望校を決め､進路実現のための学習計画を立てよう！
2	２年生の総仕上げ	第４回考査 駿台模試〈希望者〉	学年末の引き締めをしよう 学年最後のテストをがんばろう
3	３年生への中継ぎ 〔特編授業〕	第３回進路希望調査 スタディーサポート	特編授業の意義を理解し､緊張感を持って勉強に取り組もう １年の総まとめをしよう
春休	目標の確認		受験に向けての１年間の計画を立てよう

２年とはどのような学年か

クラブ・生徒会活動に活動の中心となって活躍する学年です。クラブは夏休み前には３年生も引退し、いよいよ諸君たちが主役になります。また、生徒会もペン祭が終わればバトンタッチです。こういった活動（特別活動）に溢れんばかりの若いエネルギーを注いで、二度とない高校生活を意義深いものにすると同時に、これまで述べてきたように、自分の進路や学力というもう一方の大きな車輪も回すことを肝に銘じて下さい。秋には各自の進路に応じた類型や教科の選択という大きな分岐点を迎えます。

ある程度の高度を得た鳥は、風を受け気流に乗って順調に飛行すると言われています。この高度を落とし始めると、あっという間に落ちてしまいます。また、１年で十分な高度をとれなかった人は、早めに”上昇”するようにがんばって下さい。

Ⅲ 真剣に進路について考えよう

1 「進路」ってなんだ？

本校においては、4年制大学への進学者が大多数です。だからどうしても「どこの大学に入るか（入れるか）」という形でのみ進路の話が進んで行く傾向があります。しかし進路を考える基本は**「どのような生き方をするか」**ということです。その場合、大前提になるのは各人の**「何に興味をもっているか」「どのような関係のことを深く学びたいか」**また**「どのような方面の職業に就きたいか」**という希望や考えです。それを踏まえた上で、学校やその学部・学科・専攻等の選択を行わないと、本末が転倒して何のための進路か判らなくなってしまいます。「何がなんでも○○大学」という憧れ一筋というのも否定はしませんが、それでもその大学・学部で何をしたいのかという視点を忘れないようにしましょう。

2 勉強と情報収集 ～進路決定における２大課題～

「入試をクリアする学力」の準備は必要不可欠です。それは大学に限ったことではありません。どんな進路を選ぶにしてもそれに見合った力（学力・能力）が求められることを肝に銘じておきましょう。とりあえず、すべての人にとって、大学入学共通テストレベルの問題をこなせる学力を身につけることが課題になる、といってよいでしょう。

それではどうしたらよいでしょうか。学力をつけるには勉強しなければなりません。１年次は２～３時間の家庭学習が必要でした。**２年次には２～３時間の家庭学習を維持しながら、質を高めていくことが要求されます。**何をどうやるかはこの各教科からのアドバイスや「シラバス」を参考にしてください。また、その他の様々な情報に対しても敏感になって、お互いに切磋琢磨しながら目標に向かっていきましょう。

3 志望校選択のポイント

① 明確な目的意識を持つ
　何を学びたいのか？／将来どんな職業に就きたいのか？

② 教育・研究内容を調べる
　どんな先生がいて、どんな講座があるのか？／どんな環境で、どんな施設があるのか？

③ 取得できる資格・卒業後の進路を確認する
　どんな資格が取れるのか？／卒業生の就職・進学の状況は？

④ 難易度を調べる
　どの程度の学力があればいいのか？

⑤ 入試科目を調べる
　年度ごとに状況が変わることがある。常に最新情報に注目しておこう
　国公立→共通テストの科目は？／２次試験の科目は？
　私立→共通テスト利用は？／試験科目は？

⑥ 費用を調べる
　受験にかかる費用は？／入学後に必要な費用は？

4 進路決定の参考となるもの

① 進路指導室
　進路担当の先生が常駐していて、様々な相談や資料提供に応じてくれる。

② 学級担任および教科担任
　先生方の経験や蓄積された知識、情報、ノウハウを役立てないのはもったいない。自分だけで悩まずにおおいに先生を活用しよう。

③ 家族の意見

自分の適性、性格、思いを一番よくわかり、もっとも真剣に心配してくれるのが家族です。高額な受験費用や学費・生活費を負担してくれるのも家族です。家族のみなさんの理解と協力があってはじめて進路実現が可能となるのです。家族全員から支援されるような進路希望と学習・生活状況でありたいものです。

④ 友人・仲間・先輩

友人との情報交換や励まし合いが、進路決定の大きな要因となることがあります。しかし、怠けてしまったときの慰めあいは禁物。”みんなで……れば怖くない”では困ります。

⑤ 情報誌・新聞・ＴＶ・インターネットなど

現代社会は様々な情報で溢れています。自分に必要な情報を選んで上手に利用できればおおいに参考になります。しかし、必要以上に情報を過信したり惑わされたりするのも危険です。何を参考にしてよいかわからなくなったら、担任の先生や進路の先生などに相談するとよいでしょう。

5 合格するために

① 不合格の原因（浪人生のアンケートより）

(1) **受験勉強のスタートが遅かった** 82%
(2) **苦手科目克服の対策をしなかった** 76%
(3) **日によって勉強時間にムラがあった** 60%
(4) 教科書を軽視して、基礎基本が身に付いていなかった 49%
(5) 「ながら勉強」をしていて、集中力が足りなかった 46%
(6) 「なんとかなるさ」と、入試を甘く見ていた 46%
(7) 授業に集中していなかった 43%
(8) 授業中、板書を写すだけの受け身の勉強をしていた 43%
自分の勉強方法が定まっていなかった
(9) 志望校決定が遅かった 35%
(10) 一日の勉強時間が足りなかった 32%

② 合格するためのポイント

(1) **家庭学習を継続する**
(2) **苦手科目を早めに克服する**（英数国は特に早めに）
(3) 時間を上手に使う（**授業に集中する。家庭での時間の使い方を工夫する**）

先輩の経験談

・授業をおろそかにしたため、後で取り返すのが大変だった。
・夕食までを復習に、夕食後を予習にした。
・ 就寝前に翌日の学習計画を立て、ノートに記入した。翌日はノートをみながら学習し、最後に計画通りできたか確認してそれに基づいてまた翌日の計画を立てた。この繰り返しで規則正しい無駄のない生活ができた。

(4) 基礎・基本を身につける（授業を大切に）

入試問題における教科書・授業レベルからの出題率
共通テスト……１００％
４年制大学（国公立二次・私立）の大半……８０％以上

(5) 受け身でない学習方法を身につける（予習→授業→復習の流れを）
(6) **早くから目標を定め、目標達成のための計画を立てる**
(7) 体を鍛える（受験勉強には体力が必要。体育の授業も真剣に）

Ⅳ 入試システム解説

国公立大、私立大ともに入試には「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」の３種類があります（順に、旧称「一般入試」「ＡＯ入試」「推薦入試」）。

ここでは、まず全ての受験方式において重要になる「共通テスト」について説明した後、国公立大学及び私立大学における個別の選抜方法について説明します。

１　大学入学共通テスト

2021年度入試からは今まで行われていた「センター試験」に代わって「大学入学共通テスト」が実施されます。共通テストは毎年１月中旬の土・日曜の２日間に全国で一斉に実施され、毎年50万人以上が受験する日本最大規模の試験です。

国公立大学の一般入試受験者は、原則、共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも共通テストの成績が利用できる「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須といっても過言ではないでしょう。

・共通テストの主な特徴

共通テストは国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語の６教科30科目で構成されます。この中から、最大８科目（理科①を選択した場合は９科目）を受験できます。受験生は、志望大学が指定する教科・科目を選択して受験することになります。

それぞれの試験時間帯で受験できる科目は、地理歴史・公民と理科は最大２科目（理科①を選択した場合は３科目）、そのほかの教科は１科目となっています。また、「英語」の受験者には、「リーディング」とは別の時間帯で実施される「リスニング」が必須となっています。

出題は全教科とも「マークシート方式」で実施されます。問題はそれぞれの教科の基礎の部分をしっかりと身につけているかどうかに重点が置かれています。それほど難問が出題されることはなく、高校の授業や教科書の内容を着実に身につけていれば解答できる問題です。ただし、科目によっては問題数が多く、解答するスピードが要求されます。

「英語」受験者は必須となっているリスニング対策も欠かせません。リスニングは各受験者に配られるＩＣプレーヤーで実施されます。試験内容はもとより、その独特な試験形式にも慣れるべく、予備校等が実施する模擬試験を活用するなど、しっかりと準備をしておきましょう。

・センター試験と大学入学共通テストの大きな違い

大学入学共通テストの特徴は、単に知識の量を問うのではなく、知識の質を問うこと、そして、思考力・判断力・表現力をいかして解く問題が多く出題されるようになるという点です。

具体的には、授業において学習する場面、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータなどを基に考察する場面などが設定されること、文章・図・資料などの複数の情報を提示し、必要な情報を読み取る力や、読み取った情報を比較したり組み合わせたりして、課題を解決する力を問うことを意識した問題が出題されそうです。これを踏まえ、読解量や情報量が増加します。正確で深い知識の理解とともに、素早く正確に読解すること、情報を素早く処理する力が求められています。

個別の教科では、国語の現代文において、異なる種類の分野の文章を組み合わせた問題や、実用的な文章の出題を想定するなどの点が、従来のセンター試験と大きく異なっています。

英語では、配点の変更（リーディング100点、リスニング100点へ）と問題傾向の変化です。かつて出題されていた並び替えや当てはめといった文法問題、発音やアクセントのような問題はなくなっています。その代わりまとまった文章から概要や要点を把握する力や、リスニングの中で文法力が問われるようになります。

数学①（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A）では試験時間は70分となりました。「考える時間」を考慮した試験時間となっています。

2　国公立大学入試のしくみ

（1）一般選抜

共通テストと、各大学の個別試験（二次試験）からなりたっています。

①　共通テストの利用について

共通テストの利用方法は各大学（学部・学科）に任されています。教科・科目、配点などは大学ごとに異なります。**最新の情報に常に注意しておく姿勢が必要です。**

・傾斜配点

各科目均等ではなく、科目によって配点を高くしたり低くしたりする配点方式。試験科目等の多い国公立大で広く採用されている。共通テストの場合、一定基準として国語と外国語は各２００点、その他の教科は各１００点の配点で採点しますが、この配点で採点した得点を、そのまま使用する大学はだけではありません。英語の筆記とリスニングの配点比率（基準は各１００点）も同様です。大半の大学は独自に各教科の配点を定め、その配点に換算して各受験生の得点を算出します。共通テストと２次試験（個別試験）の合計でみると、各学部・学科で重視する科目にウェートをかけて配点しています。

・自己採点

センター試験は終了後に正答例や各枝問の配点が新聞などで公表されます。受験生は自分の解答を問題用紙にメモしておき、自分の予想得点を計算できます。国公立出願の前に発表される平均点などを参考に自分の得点から判断して、二次試験（個別試験）に出願する大学を選び、二次試験に出願します。従って、自己採点の正確性が重要です。

②　個別試験（二次試験）

国公立大学は前期日程及び後期日程で行われます。異なる２大学だけでなく、同じ大学・学部に２回チャレンジすることもできます。後期日程は募集人員が少ないのが現状で、近年後期日程を取りやめ、前期日程に絞ったり、後述する総合型選抜や学校推薦型選抜に募集人員を振り分けたりする例も見られます。ただし、後期試験まで受験することによって合格を勝ち取る事例も多くあることから、粘り強く試験に挑戦する姿勢が重要だといえます。

また、一部の公立大学では中期日程での試験や、別日程での試験も行われています。こちらも視野に入れて大学出願の検討をすることになります。なお、前期日程に合格して入学手続きをした人は、後期日程や中期日程を受験しても、合格する権利を失うことになるので、要注意です。

具体的な試験科目は、一部の大学を除いて、２～３教科で実施されるケースがほとんどです。小論文や面接を課されることもあり、この傾向は近年強まってきています。志望校や関心のある大学の要項を取り寄せて、必ず入試科目・配点等をチェックしましょう。

（2）総合型選抜

出願条件は、評定平均値といった成績基準がなかったり、高卒生でも出願できるなど、推薦入試より緩やかな場合が多いです。ただし、大学によっては「英検などの有資格者」「全国コンテストの上位入賞者」といった条件が加わっていることもあります。

また、調査書等の出願書類だけでなく、(1) 各大学が実施する評価方法等（例：小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等）、もしくは (2)「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つの活用を必須化することとしています。また、志願者本人の記載する資料（活動報告書、入学希望理由書、学修計画書等）を積極的に活用することとしています。

（3）学校推薦型選抜

一般選抜との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの大学では、基本的に「出願者は、合格した場合は必ず

入学する者に限る」専願制の入試となっています。

推薦入試を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第１志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。受験にあたっては、推薦入試向けの準備も必要です。

実際の試験では、調査書等の出願書類だけでなく、(1) 各大学が実施する評価方法等（例：小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等）もしくは (2)「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか一つによる評価が必須化されています。また、推薦書において (1) 本人の学習歴や活動歴を踏まえた「学力の3要素」に関する評価を記載すること、及び (2) 大学が選抜でこれらを活用することのどちらも必須化されています。

大学入学者選抜実施要項の見直し

入試区分		一般選抜（現：一般入試）	総合型選抜（現：ＡＯ入試）	学校推薦型選抜（現：推薦入試）
実施期日		試験期日　2/1～3/25 合格発表時期　3/31まで	出願　9月以降 合格発表時期　11月以降	出願　11月以降 合格発表時期　12月以降
内容面	課題	①出題科目が１～２科目に限定されている場合がある ②記述式の未実施 ③英語４技能を総合的に評価する必要がある ④「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価が不十分	●一部、事実上の「学力不問」となっている場合あるとの指摘 ●「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価が不十分	
	見直し案	①教科・科目に係るテストの出題科目の見直し ②国語を中心とした記述式の導入・充実など作問の改善 ③英語４技能評価の導入 ④調査書や志願者本人の記載する資料を積極的に活用調査書等の活用については募集要項等に明記 ①～③は総合型選抜・学校推薦型選抜でも推奨	●「知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準としない」という記載を削除 ●志願者本人の記載する資料を積極的に活用 →詳細な書類審査と丁寧な面接による評価の充実	●「原則として学力検査を免除」という記載を削除 ●推薦書の中で学力の３要素の評価を必須化
			●各大学が実施する評価方法（小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・認定試験の成績）又は大学入学共通テストの活用の必須化	

※文部科学省資料「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」より作成

※　なお、多面的・総合的な選抜が重視される方向性が示されるなかで、国立大学では学校推薦型選抜・総合型選抜（＝推薦・ＡＯ入試）が年々拡大しています。国立大学の団体である国立大学協会は、現在２割に達していない推薦・ＡＯ入試の募集人員の割合を、最終的には３割まで拡大するという方向性を示しています。私立大学の入学者数の半数が推薦・ＡＯ入試で入学している現状と比較すると、まだまだ一般入試中心の入試であることには変わりはありません。しかし、多面的・総合的な選抜へ転換していくなかで、徐々に学校推薦型選抜・総合型選抜の募集枠を拡大していく動きは今後も続きそうです。

３　私立大学入試のしくみ

（１）一般選抜

国公立大学とは異なり、多様な選抜方法があります。

①　共通テスト利用入試

共通テストの成績をもとに合否が決まる入試方式のこと。**私立大でも共通テスト利用入試を実施する大学が約８割となっており、私立大を志望する受験生にとっても関係の深い試験になっています。**私立大ごとの入試対策をせずに済むため、国公立大が第一志望で私立大を併願受験する人が、この方式を利用する場合が多いようです。

ただし、共通テスト利用入試は、募集人員がかなり少なく、倍率が高くなる大学が多いので、合格の難易度も当然高くなることも念頭に置いておきましょう。

②　柔軟性に富んだ選択科目等

複数科目の中から受験科目を選択させたり、教科によって配点に違いをもたせたりするなど、受験生が得意教科を活かして受験できます。学科試験以外に小論文や複数教科を融合した総合問題を出題する大学も増えています。また、実用英語検定などの取得級を点数化して試験の点数に加点できる大学もあります。

③　試験日自由選択制

「試験日自由選択制」とは、同一学部・学科の試験日を2～3日の範囲で設定し、受験生がその中から都合の良い日を自由に選ぶことができるという制度です。このため同じ学部・学科を2回以上受験できたり、複数の学科に出願できたりと、併願の幅が広がります。

（2）総合型選抜

国公立大学の説明を参照して下さい。

（3）学校推薦型選抜

国公立大学の項で説明したものの他に、指定校制推薦があります。

・指定校制推薦

この推薦は応募できる受験生の出身校が予め指定されている制度をいいます。
指定は、その高校からの入学者数や入学後の成績など過去の実績に基づいて行われています。
指定校制推薦は、高校と大学との信頼関係によって成り立っていることを肝に銘じる必要があります。そして、併願はできないのでよく考慮した上で出願する必要があります。

4　小論文について

最後に、国公立・私立大学に関わらず、どの選抜方式でも出題が増えてきた小論文について触れます。

①　小論文とは

小論文とは、社会問題や時事問題など与えられたテーマについて自分の意見を論理的・客観的に表現することです。したがって小論文では基本的知識・考え方・洞察力が観点となります。課題文の印象を述べる作文（感想文）とは違います。

②　小論文入試を行う目的

・受験生の一般的な論理的思考力・記述力を見る
学部や入試の種類に関わらず、受験生の一般的な論理的思考力・記述力を見る問題。受験生の受験勉強以外の広範な学習歴を試すことが目的。

・受験生の志望学部への適性を見る
学部で学ぶ内容と直結した問題。自分が志望する学部の学習内容に関して、ある程度知識があるかどうかを試すことが目的。

・受験生の基本的な読み書き能力を見る
主述の一致や単語の使い方など、普段の国語力を確認するのが目的。

5　まとめ

複雑な入試制度ですが、次の点はよく確認してください。

①　大学選択の幅を広げておこう。

入試科目が減るほど、高得点が要求されます（国公立、私立ともに）。途中で科目を減らすことはできても、増やすことは難しい上に、共通テストが５教科７科目中心であることを考えれば、**伊那北高校のすべてのカリキュラムが必要になってくる**といっても過言ではありません。全国のすべての国公立志望の高校生が皆同じ立場にあるのですから、安易な方向に流されず**オールラウンドに学習することを怠らないようにしましょう。**

②大学に関心を持とう。

細部は大学ごとに異なるのが現在の入試です。何より**事前研究を怠ることのないようにしましょう。**共通テストでどの科目が必要となるのか、個別試験はどうなのか等、常に最新情報に注意しておく姿勢が必要です。また、大学と自分の志望とのマッチングもとても重要です。**各大学のアドミッションポリシーなどにも必ず目を通し理解を深めておきましょう。**

Ⅴ　教科・科目別学習方アドバイス　及び　シラバス

1　国語

1．１年次国語学習を振り返って

１年間の高校国語の学習を終え、どのような感想を持っているだろう。授業を聞いて「覚える」だけではなく、「自分で考える」ことを意識して学習できただろうか。以下に述べることを参考に、自分の学習習慣を見直して、より国語力を高める学習を目指していこう。

2．２年次伸ばしていってほしい力、具体的学習方法

【現代文】

伸ばしていってほしい力

①　語彙力
②　文章から主題や要旨を読み取ったり、資料から必要な情報を選択したりして、それらの内容を自分の言葉でまとめる力
③　論理の構成や展開を工夫し、自分の考えを書く力
④　様々な文章や他者との意見交換から、多面的なものの見方や考え方ができる力

具体的学習方法

⑴　現代文の要約・記述

「書く」作業は現代文の基本。「理由」が問われているのか「説明」が要求されているのか注意して設問の内容に添った解答を意識する。授業、週末課題等で練習を積むことが大切。

⑵　語彙力の増強（語句調べ・辞書の活用）

まずは授業の語句調べをしっかりと行うこと。教材の中で出た単語を大切に扱うことが基本。漢字を覚える際には、読みや書きだけではなく、意味も理解しなければならない。また、わからない語句はそのままにせず、辞書を活用してその場で意味を理解する。調べた語句はメモをしておくこと。

⑶　読書・様々な文章に触れる

語彙力や読解力の増強になる。また、様々な考えや、文章の型、時事問題などを知ることができる機会でもある。本だけではなく、新聞を読んだり、教科書や問題集の原典を読んだりと、普段自分が読まない文章も積極的に読んでみよう。

⑷　テスト、模試のやり直し・授業の振り返り

答えを覚えるだけでは意味がない。模試解説書は特に復習に有効な内容なので、取り組むこと。「覚えなければならないこと」に繰り返し触れ、「見たことがある、やったことがある」という感覚を大切にする。

【古典】

伸ばしていってほしい力

① 文章を読む上で欠かせない基礎力（単語・文法事項を身につける）
② 作品の要旨や内容を読み取る力
③ 様々な作品や他者との意見交換から、多面的なものの見方や考え方ができる力

具体的学習方法

⑴ 音読

目と口と耳と３つの器官を用いた音読は頭に入りやすい。「口で覚える」ことが肝要。暗唱することで単語や文法事項を「文」で思い出せることもある。

⑵ ざっくり読み

現段階での実力で、初見の文章の内容を大づかみする練習。以下に個別に身につけるべきことを書いてあるが、それらの力をただ伸ばすだけでは読解力は付かない。それらを応用する力を付けること、その近道がざっくり読みである。

⑶ 単語力の増強

古文を読む上でまず重要な力は単語力である。小テストや考査に向けて何度も単語帳を用いて覚える地道な努力が単語を身につける一番の近道。

⑷ 文法事項の理解

動詞・形容詞・形容動詞の活用については身につけていることが前提。助動詞も１年次で身についていることが前提である。不安のある人は、徹底的に復習してほしい。２年次は敬語・助詞の学習に重点を置く予定である。授業のプリントや文法書を有効活用して、学習を進めよう。

⑸ 予習をきちんと行う（文法説明・現代語訳）

本文や訳を書き写すだけでは、力はつかない。現代語訳を自分の頭で考えてすることで、古典が読めるようになっていく。訳の精度を上げるためにも、古文は品詞分解と助動詞の意味を踏まえて単語ごとの逐語訳を意識すること。漢文では文中の句形を確認すること。予習段階で「どこかでやったことがある」と感じたら、過去の学習内容を確認し、関連付けるとより定着が進むはず。

⑹ テスト、模試のやり直し・授業の振り返り

点数を見て、正答を覚えるだけでは意味がない。模試解説書は特に復習に有効な内容なので、取り組むこと。「覚えなければならないこと」に繰り返し触れ、「見たことがある、やったことがある」という感覚を大切にする。

※現代文・古典ともに教科書は３年次まで使うので、大切に扱おう。

長野県伊那北高等学校

科目	現代文Ｂ	単位数	2	授業時間［総時数］	５５分［６４回］	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	精選現代文Ｂ（東京書籍）	副教材等		『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2000』（いいずな書店）、その他各種問題集					
学習の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語力の向上を図り、人生を豊かにする態度を養う。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・漢字力・語彙力の向上に努めること。 ・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。特に復習が重要である。 ・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考（使用教材）	時数
4 5 6	評論１ 小説１ 評論１	・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・自らの意見を効果的に表現する力を付ける。（全単元）	・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・細部の表現に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・立場や論点を明確にして、意見を書き（評論分野）、感想や意見を述べ合う（小説分野）。	・「世界をつくり替えるために」（小林康夫） ・「山月記」（中島敦） ・「ミロのヴィーナス」（清岡卓行）	１５
第１回考査					1
6 7 8 9	評論３ 小説１ 詩歌 評論３	・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・筆者の見解を応用する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（詩歌分野）	・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・筆者の見解を踏まえて具体的事象について分析する。（全単元） ・作品の成立した背景などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。（詩歌分野）	・「消費されるスポーツ」（多木浩二） ・「旅する本」（石田衣良） ・「竹」（荻原朔太郎） ・「おじいさんのランプ」	１６
第２回考査					1
9 10 11	評論５ 詩歌 評論５	・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（詩歌分野）	・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・筆者の見解を踏まえて具体的事象について分析する。（全単元） ・関連する文章や資料を基に、作者の立場や目的を考えながら内容の解釈を深める。（全単元）	・「地図の想像力」（若林幹夫） ・「永訣の朝」（宮澤賢治） ・「日本人の美意識」（高階秀爾）	１５
第３回考査					1
12 1 2 3	小説２ 評論４ 小説３	・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・他の資料等を読み比べる力を付ける。（評論分野） ・ものの見方・考え方を豊かにする。（小説分野）	・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・小説で描かれた内容を自分に引きつけて考えるとともに感想を伝え合う。（小説分野） ・文章を批評することを通して自分の考えを深め、発展させる。（評論分野）	・「こころ」（夏目漱石） ・「である」ことと「する」こと（丸山真男） ・「藤野先生」（魯迅）	１５

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的判断し評価。

長野県伊那北高等学校

科目	古典Ｂ	単位数	3	授業時間[総時数]	５５分［９６回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	精選古典Ｂ　古文編・漢文編（東京書籍）	副教材等		新修古典文法（京都書房）、精説漢文（いいずな書店）、読んで見て覚える重要古文単語３１５（桐原書店）、その他各種問題集					
学習の目標	古典としての古文や漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・文法・句法力の向上に努めること。 ・単語・語彙力の向上に努めること。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。 ・多様なの文章に触れ、読み慣れることが重要である。復習（再読）も重要である。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考（使用教材）	時数
4 5 6	[古文] 説話１ [漢文] 小話１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・話の展開や内容を的確に読み取り、さまざまな見方、考え方に触れる。（全単元）	・読解に必要な敬語・助詞（古文分野）や、句形（漢文分野）などの基本事項を理解する。 ・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに、文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。（全単元）	・新修古典文法 ・「能は歌詠み」（古今著聞集） ・精説漢文 ・附録 漢文句法・重要語のまとめ ・「先従隗始」（十八史略）	２３
第１回考査					1
6 7 8 9	[古文] 随筆１ 物語１ [漢文] 小話１ 詩１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。（全単元） ・随筆や物語を読む楽しさを感じる。（古文分野） ・唐詩を読み味わう。（漢文分野）	・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。（古文分野） ・和歌に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉え、歌物語の特徴を理解する。（古文分野） ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。（漢文分野） ・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。（漢文分野）	・「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」（枕草子） ・「初冠」（伊勢物語） ・「野中兼山」（先哲叢談） ・「登楽遊原」（李商隠） ・「完璧而帰」（十八史略）	２３
第２回考査					1
9 10 11	[古文] 物語２ [漢文] 史記１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。（全単元） ・源氏物語を読む楽しさを実感する。（古文分野）	・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。（古文分野） ・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。（古文分野） ・歴史上の人物の行動や心情について考えるとともに、その生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。（漢文分野）	・「道長、伊周の競射」（大鏡） ・「桐壺」「若紫」（源氏物語） ・「鴻門之会」（史記）	２３
第３回考査					1
12 1 2 3	[古文] 詩歌 [漢文] 小説１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・和歌に関する基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（古文分野） ・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。（漢文分野）	・和歌の技法などの基本事項を理解するとともに、優れた表現を味わう。（古文分野） ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。（古文分野） ・発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさについて考え、意見交流をする。（漢文分野）	・「王朝秀歌」 ・「夜行逢鬼」（太平広記）	２４

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的判断し評価。

長野県伊那北高等学校

科目	古典Ｂ	単位数	2	授業時間［総時数］	５５分［６４回］	学年	2	学科	理数科
使用教科書	精選古典Ｂ　古文編・漢文編（東京書籍）	副教材等	新修古典文法（京都書房）、精説漢文（いいずな書店）、読んで見て覚える重要古文単語３１５（桐原書店）、その他各種問題集						
学習の目標	古典としての古文や漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・文法・句法力の向上に努めること。 ・単語・語彙力の向上に努めること。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。 ・多様な文章に触れ、読み慣れることが重要である。復習（再読）も重要である。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考（使用教材）	時数
4 5 6	［古文］ 説話１ ［漢文］ 小話１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・話の展開や内容を的確に読み取り、さまざまな見方、考え方に触れる。（全単元）	・読解に必要な敬語・助詞（古文分野）や、句形（漢文分野）などの基本事項を理解する。 ・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに、文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。（全単元）	・新修古典文法 ・「能は歌詠み」（古今著聞集） ・精説漢文 ・附録 漢文句法・重要語のまとめ ・「先従隗始」（十八史略）	１５
第１回考査					1
6 7 8 9	［古文］ 随筆１ 物語１ ［漢文］ 小話１ 詩１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。（全単元） ・随筆や物語を読む楽しさを感じる。（古文分野） ・唐詩を読み味わう。（漢文分野）	・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。（古文分野） ・和歌に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉え、歌物語の特徴を理解する。（古文分野） ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。（漢文分野） ・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。（漢文分野）	・「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」（枕草子） ・「初冠」（伊勢物語） ・「野中兼山」（先哲叢談） ・「登楽遊原」（李商隠） ・「完璧而帰」（十八史略）	１６
第２回考査					1
9 10 11	［古文］ 物語２ ［漢文］ 史記１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。（全単元） ・源氏物語を読む楽しさを実感する。（古文分野）	・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。（古文分野） ・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。（古文分野） ・歴史上の人物の行動や心情について考えるとともに、その生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。（漢文分野）	・「道長、伊周の競射」（大鏡） ・「桐壺」「若紫」（源氏物語） ・「鴻門之会」（史記）	１５
第３回考査					1
12 1 2 3	［古文］ 詩歌 ［漢文］ 小説１	・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（全単元） ・和歌に関する基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。（古文分野） ・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。（漢文分野）	・和歌の技法などの基本事項を理解するとともに、優れた表現を味わう。（古文分野） ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。（古文分野） ・発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさについて考え、意見交流をする。（漢文分野）	・「王朝秀歌」 ・「夜行逢鬼」（太平広記）	１５

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的判断し評価。

２　数　学

（１）　学習の心構え

１年次の取り組みを振り返って、正直甘く見て痛い目にあった者は多いのではないでしょうか。１年生の春確認（約束）したことを再度確認します。

＜高校数学は勉強しないと解答を完成できません。問題集で問題をたくさん解き（慣れ）、教科書で用語や公式を確認しながら進めましょう。**理由を考え、記述できる**ようになりましょう（**そんなこと書かなくてもわかるだろ！ということでも記述しなければならない**、数学はそのような教科なのです）。それらの積み重ねによって少しずつ数学の力が身に着いていきます。数学は毎日授業があり進度が速いですので、入学から卒業までおよそ1100日、毎日学習する覚悟を今決めましょう。＞（一部改変）

気持ちを新たに２年次も頑張りましょう！

（２）　学習の方法

毎日の家庭学習が確実に必要です。難しいことはありません。とにかく毎日です。

（３）　教材の使い方

・教科書　　…隅から隅まで読み、問題の解き方だけ見るのではなく、**用語の意味**を正しく覚えましょう。また、教科書には**公式の証明方法**が書いてあります。それを理解することで**かなりの力が身につきます**。公式を**使うところからではなく、**公式を**作るところから**やってみましょう。

・問題集　　…基礎問題，応用問題の練習。解法のヒント等あります。

・完成ノート…書き込み提出用。恐ろしい速さで進みます。毎日やりましょう。

・チャート　…問題の解法の確認。問題集としても活用できる。

（４）　成績の評価方法

定期考査、課題テスト、Weekly Test、提出物、出欠

令和４年度シラバス【数学ⅡB】：３年次数学Ⅲ選択者

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅱ	単位数	4	授業時間[総時数]	５５分［１２８回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	改訂版　高等学校数学Ⅱ 改訂版　高等学校数学Ⅲ	副教材等		クリアー数学Ⅱ＋B，Ⅲ (参考書)チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B，Ⅲ					
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期考査、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	第３章 第４章 第５章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第３章　図形と方程式 第４章　三角関数 第５章　指数関数と対数関数	↓数学Ⅱ	２０ ２０ １０
第１回考査					1
6 7 8 9	第６章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第５章　指数関数と対数関数 第６章　微分法と積分法	↓数学Ｂ	１０ ２０
第２回考査					
9 10 11					
第３回考査					
12 1 2	第１章 第２章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第１章　複素数平面 第２章　式と曲線	↓数学Ⅲ	２０ ２０
第４回考査					1
3					6

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身につけている。	当該分野における考え方に関心を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

科目	数学 B	単位数	2	授業時間［総時数］	５５分［６４回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	改訂版　高等学校数学 B	副教材等		クリアー数学Ⅱ＋B （参考書）チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B					
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期考査、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6				↓数学Ⅱ	
第１回考査					
6 7 8 9	第１章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第１章　平面上のベクトル	↓数学 B	１１
第２回考査					1
9 10 11	第２章 第３章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第２章　空間のベクトル 第３章　数列		１０ ２１ ２０
第３回考査					1
12 1 2				↓数学Ⅲ	
第４回考査					
3					

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身につけている。	当該分野における考え方に関心を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

令和４年度シラバス【数学ⅡB】：３年次数学Ⅲ選択者以外

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅱ	単位数	4	授業時間[総時数]	５５分［１２８回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	改訂版　高等学校数学Ⅱ	副教材等		クリアー数学Ⅱ＋B (参考書)チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B					
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期考査、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	第３章 第４章 第５章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第３章　図形と方程式 第４章　三角関数 第５章　指数関数と対数関数	↓数学Ⅱ	２０ ２０ １０
第１回考査					1
6 7 8 9	第６章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第５章　指数関数と対数関数 第６章　微分法と積分法	↓数学Ｂ	１０ ２０
第２回考査					
9 10 11					
第３回考査					
12 1 2		テキストを用いて基本から応用までの演習問題に取り組む		テキストは未定	４０
第４回考査					1
3					6

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身につけている。	当該分野における考え方に関心を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

科目	数学Ｂ	単位数	2	授業時間［総時数］	５５分［６４回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	改訂版　高等学校数学Ｂ	副教材等		クリアー数学Ⅱ＋Ｂ （参考書）チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋Ｂ					
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期考査、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6				↓数学Ⅱ	
第１回考査					
6 7 8 9	第１章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第１章　平面上のベクトル	↓数学Ｂ	１１
第２回考査					1
9 10 11	第２章 第３章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第２章　空間のベクトル 第３章　数列		１０ ２１ ２０
第３回考査					1
12 1 2				↓数学ＩＡⅡＢ の演習	
第４回考査					
3					

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身につけている。	当該分野における考え方に関心を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

令和４年度シラバス【理数数学Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	理数数学Ⅱ	単位数	7	授業時間[総時数]	５５分[224回]	学年	2	学科	理数科
使用教科書	改訂版　高等学校数学Ⅱ 改訂版　高等学校数学Ⅲ	副教材等		（問題集）改訂版　4 STEP 数学Ⅱ＋B，Ⅲ （参考書）チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B，Ⅲ					
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・定期考査、Weekly Test などを行う。 ・定期考査、Weekly Test を利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	第３章 ～ 第５章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第３章　図形と方程式 第４章　三角関数 第５章　指数関数（対数関数）	↓数学Ⅱ	54
第１回考査					2
6 7 8 9	第６章 第１章 ～ 第３章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第６章　微分法と積分法 第１章　平面上のベクトル 第２章　空間のベクトル 第３章　数列	↓数学Ｂ	54
第２回考査					2
10 11	第３章 第１章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第３章　数列 第１章　複素数平面	↓数学Ⅲ	54
第３回考査					2
12 1 2	第２章 第３章 第４章	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	第２章　式と直線 第３章　関数 第４章　極限		48
第４回考査					2
3	第４章		第４章　極限		6

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身につけている。	当該分野における考え方に関心を持つと共に、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 Weekly Test(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物（プリント、ノート） 課題レポート・発言・質問

令和４年度シラバス【コミュニケーション英語Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4	授業時間［総時数］	５５分［１２８回］	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	CROWN English Communication Ⅱ	副教材等		CROWN WORKBOOK/予習サブノート 解体英語構文 Reading Flash 2 Hyper Listening 4th Edition pre-intermediate 英単語ターゲット 1900					
学習の目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・日常的、社会的な話題について、一定の支援を活用し、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り、発表)、書くことができるようにする。 ・小テスト、課題、ディベート、発表等を行う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	Lesson 1～3	関係詞、準動詞、分詞構文、助動詞の理解定着。ストーリー文と論説文の読解法法の理解。	指導目標に掲げた文法を理解し、冒険（自伝）伝統文化（ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ）・歴史（説明文）等文の種類に合わせた読解力を身につける。特に Lesson1 では題材となっている人の講演を聞く機会が予定されているので、自らの進路にも絡めて生き方の考察につながるよう学習する。	構文集は月２回、単語は週１回のペースで小テストを行う。	２５
第１回考査					1
6 7 8 9	Lesson 3～5	時制、強調構文、複合関係詞、比較の理解定着。	指導目標に掲げた文法を理解し、医療の国際協力、言語をテーマとした題材を自らの進路とも絡めて深く読み込む学習を行う。	速読直解力の向上を図るため小テストを行う。	２５
第２回考査					1
9 10 11	Lesson 6～8	不定詞、倒置、無生物主語構文、仮定法、時制と態の理解定着。	指導目標に掲げた文法を理解し、環境・社会貢献等総合探求等と絡めて深く読み込む学習を行う。	速読直解力の向上を図るため小テストを行う。	３３
第３回考査					1
12 1 2	Lesson 9～10	独立分詞構文、時制、受動態の理解定着。	指導目標に掲げた文法を理解し、自然科学に関する記述、ﾌｧﾐﾘｰﾋｽﾄﾘｰに関する手紙文という異なる種類の英文を、一年間学んだ構造的文理解を踏まえて深く読み込む学習を行う。	リスニング力向上を集中的に図るため、小テストを行う。	３３
第４回考査					1
3	10	前回までのまとめ	前回までのまとめ。	３学年に向けた学習姿勢の涵養。	8

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り、発表］、書くこと）の理解、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、活用できる技術を身につける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりできる。五つの領域を理解し、質疑応答したり、意見や感想を伝え合ったりすることができる。	課題に関心をもち、意欲的に取り組み、コミュニケーションを積極的かつ有効的な態度で図ろうとしている。
評価方法	定期考査・課題テストや小テストの得点状況等。	定期考査・課題テストの得点状況、成果物や課題の内容、発表の評価等。	成果物や課題の提出状況、小テスト・発表への参加状況、グループ学習等への取り組み状況、定期考査・課題テストの得点状況等。

令和４年度シラバス【英語表現Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	英語表現Ⅱ	単位数	2	授業時間［総時数］	５５分［６４回］	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	Vision Quest Ⅱ Ace	副教材等		Vision Quest Ace New Workbook Bright Stage 英文法・語法問題/Reps be English Grammar 46/be Voyage to English grammar					
学習の目標	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の工夫をしながら伝える能力を伸ばす。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・１学年時に修得した文法事項に立脚し、様々な場面で適切に英語を理解し表現する力を養成する。 ・パラグラフ等の英文構造を理解し、構造的な英文を作成できる力を養成する。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート等様々な表現の基礎を身につけさせる。 ・それぞれの能力評価は、定期考査を中心に、小テストや課題、授業中の発表等により、①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体的に学ぶ姿勢の各観点を加味して行う。 ・英語力の基本となる文法理解は授業だけではなく、日々の家庭学習においても錬成すべきであることを徹底する。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	Part１	文をデザインする	主語、自動詞・他動詞、文型、使役動詞・知覚動詞、話法、時制	自律的学習姿勢の構築	１２
第１回考査					1
6 7 8 9	Part1	文をデザインする	態、仮定法、助動詞、修飾語句（形容詞・後置修飾・関係詞・副詞）、比較、否定表現	目標達成のための戦略的アプローチ	１２
第２回考査					1
9 10 11	Part2 Part3	文章を組み立てる	パラグラフ理解、要約（リーディング、リスニング） プレゼンテーション	理解の穴の整理	１６
第３回考査					1
12 1 2	Part3	英語で発信する	プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート	理解の穴の整理	１６
第４回考査					1
3		まとめ			4

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	言語の運用に関する基礎的な文法・構文やイディオム等語彙を身につけるとともに、適宜適切な表現に結び付けることができる。	伝えたい内容を相手にわかりやすいように整理したり、聞いたり読んだりしたことについて情報や考えを、学んだことを活かし、論理的に書いたり話したりすることができる。	課題に関心をもち、意欲的に取り組み、コミュニケーションを積極的かつ有効的な態度で図ろうとしている。
評価方法	定期考査・課題テストや小テストの得点状況等。	定期考査・課題テストの得点状況、成果物や課題の内容、発表の評価等。	成果物や課題の提出状況、小テスト・発表への参加状況、グループ学習等への取り組み状況、定期考査・課題テストの得点状況等。

令和４年度シラバス【英語総合】

長野県伊那北高等学校

科目	英語総合	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分[６４回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	入門英文解釈の技術７０	副教材等	SKYWARD(LAND) 発展英語長文を読むためのパラグラフリーディング REPS						
学習の目標	英語長文の精読・速読力養成を中心に、構文・熟語や文法の学習内容を加味した英語理解のコツを身につける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・英語の構造的理解ができるようにする。 ・英語の語順で内容を理解できるようにする。 ・日本語に対し、英語的発想で英文作成ができるようにする。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
	FirstStep ﾊﾟﾗｸﾞﾗﾌﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ	春休み課題での正解率を１．５倍に伸ばす。	３月特編で扱ったﾊﾟﾗｸﾞﾗﾌﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞを教材に、文章を構造的に読む基本について学ぶ。	知識・技能の育成を中心に行う。	8
	SecondStep 英文解釈の技術 70 （第１部）	テキストの各内容を理解し、理解度を図るための質問に答えられる。	英文解釈の基本的テクニックをテキストに沿って学ぶ。	知識・技能の育成を中心に行う。	35
	英文解釈の技術 70 （第２部）	各門につき、３分以内に正解を導く。	解釈のテクニックを使って、短文のスピーディーな理解力をつける。	思考力・判断力・表現力の育成を中心に行う。	
	Reps	各自が設定する正解率を達成するまで繰り返し問題に向き合う。	英文理解のために必要な文法について自ら継続的に学習する。	主体的に学ぶ姿勢の育成を中心に行う。	
	ThirdStep SKYWARD(LAND)	各自が設定する正解率を達成するまで繰り返し問題に向き合う。	ﾊﾟﾗｸﾞﾗﾌﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞや英文解釈の技術を通じて学んだことを活かして実際の英文を購読し、正確に早く英文を理解をするための演習を行う。	思考力・判断力・表現力の育成を中心に行う。	21

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・英文の構造（文型、後置修飾、主節・従属節の関係、分詞構文等）や基礎的な文法を理解している。 ・英文を理解するのに必要な語彙（含、熟語）や構文を覚えている。	・与えられた言語材料や指導上のサポートを受けて指定された内容の英文が作成できる。 ・複雑な英文や未知語の入った英文に対し、推察しながら内容理解をしようとする姿勢がみえる。	・難読部分であっても諦めずに自律的に調べ、尋ねて英文を理解しようとする。 ・小テスト、定期考査等学習到達度測定の結果を分析し、次回に活かす努力の後が見られる。
評価方法	小テスト 定期考査	学習課題 定期考査	授業 面談

4　日本史Ｂ（３単位・９６コマ）

１．学習の方法

「日本史Ｂ」の共通テストに目を通してくれた生徒はどれくらいいるだろうか？史料・資料問題が多く盛り込まれていたり、聞いたこともない人名を目にしたことでたじろいでしまったのではないだろうか。しかし、実際に問題を解いてみると、授業で学んだ知識を駆使すれば解ける問題ばかりだ。

勿論、歴史科目なので暗記してもらわねばならない事項は山ほどある。が、流れの中で、「５Ｗ１Ｈ１Ｒ」を意識しながら学習してもらえれば満点も夢ではない。一緒に頑張ろう！

２．授業年間計画　（2022 年度）

科目	日本史Ｂ	単位数	3	授業時間［総時数］	５５分［96 回］	学年	2	学科	普通科理数科
使用教科書	詳説日本史Ｂ（山川出版社）	副教材等	・日本史用語集（山川出版社） ・史料日本史（とうほう） ・新詳日本史（浜島書店） ・新日本史要点ノート［応用編］（啓隆社）						
学習の目標	過去に学べる人材、経験のみに頼るのではなく、確固たる意志を持って自分たちの未来を切り拓ける人材の育成を目指す。暗記科目で終わるのではなく、興味・関心を醸成したい。								
具体的な取り組み指導上の注意点	用語の暗記に終始するのではなく、「５Ｗ１Ｈ１Ｒ」を意識して学習に取り組んでほしい。史料と資料から、因果関係や人物関係などを考慮できる学習を心掛けたいので、生徒のみんなにも自分なりの問題意識や疑問点を持って授業に臨んでもらいたい。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化	・地質学的な用語から時代区分を学習し、古代日本国家の成立を理解させる。 ・唐に倣った律令国家の形成への歩みがどのようなものだったのか理解させる。 ・日本独自の文化の成立を理解させる。	１．文化の始まり ２．農耕文化の成立 ３．古墳とヤマト政権 １．飛鳥の朝廷 ２．律令国家への道 ３．平城京の時代 ４．天平文化 ５．平安王朝の形成 １．摂関政治 ２．国風文科 ３．地方政治の展開と武士	教科書や史料・資料集のデータを参照しつつ、グループディスカッションなどを交えて展開させる。	２４
第１回考査					1

6 7 8 9	中世社会の成立 武家社会の成長	・貴族社会の衰退から武家政権の台頭に向けた社会情勢を理解させる。	1．院政と平氏の台頭 2．鎌倉幕府の成立 3．武士の社会 4．蒙古襲来と幕府の衰退 5．鎌倉文化 1．室町幕府の成立 2．幕府の衰退と庶民の台頭 3．室町文化 4．戦国大名の登場	教科書や史料・資料集のデータを参照しつつ、グループディスカッションなどを交えて展開させる。	18
第2回考査					1
9 10 11	幕藩体制の確立 幕藩体制の展開		1．織豊政権 2．桃山文化 3．幕藩体制の成立 4．幕藩社会の構造 1．幕政の安定 2．経済の発展 3．元禄文化	教科書や史料・資料集のデータを参照しつつ、グループディスカッションなどを交えて展開させる。	24
第3回考査					1
12 1 2	幕藩体制の動揺		1．幕政の改革 2．宝暦・天明期の文化 3．幕府の衰退と近代への道	教科書や史料・資料集のデータを参照しつつ、グループディスカッションなどを交えて展開させる。	24
第4回考査					1
3			4．化政文化		2

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	それまでの学習事項も駆使し、流れの中での日本史を理解・把握できる。	通史・文化史も含めたテーマ史の双方を理解し、授業内での発表や問題への回答に活かすことができる。	歴史的な考察を生徒自身が行い、史料・資料からの読み取りや理解に活かし、問題解決能力に反映できる。
評価方法	5回の考査などで基礎的応用的な問題を課し，知識・技能の定着と発展性を見定める。	定期考査後にレポートを課しし，思考・判断・表現の定着と発展性を評価する。	グループ学習，質疑応答，事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。

5　地理Ｂ（３単位・９６コマ）

1．学習の方法

「地理」は暗記科目ではないといいますが，もちろんある程度の暗記は必要です。その上に，「地理」的な見方・判断力が養成されます。2 年次は系統地理学習，3 年次ではより発展した地誌学習が中心となります。深い学習につなげていくためにも，以下の点に留意して下さい。

(1)「教科書」「資料集」を精読する。サクシード地理で要点をまとめていく。
(2)「地図帳」を常に手元に置き，利用する習慣をつける。
(3)「地形図」を読むことに慣れる。スマホで地図アプリ「地理院地図」の利用を心がける。
(4)「統計資料集」で生産量・輸出量・輸入量などの上位国を確認する習慣をつける。
(5) 新聞やニュースに接し，国内外の情勢に関心をもち，記事の地図や図表・グラフを読む習慣をつける。

2．授業年間計画　（2022 年度）

科目	地理 B	単位数	3	授業時間[総時数]	５５分[96 回]	学年	2	学科	普通科理数科
使用教科書	新詳地理 B，帝国書院 詳解現代地図，二宮書店	副教材等		新編地誌資料，白地図ワーク&読図演習，とうほう データブックオブザワールド 2022，二宮書店					
学習の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に，さらに歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界への地理的認識を養う。地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究する。 地球的な課題を見いだし，系統地理的・地誌的に考察し，その過程や結果を適切に表現する。 地図，統計，画像など地域に関する有用な資料や情報を選択，解釈して図表などにまとめる。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	地図 大地形 小地形	地図の図法と情報化，内作用と大地形，外作用と小地形について学び，技能を習得する。	地図投影法，世界地図の歴史，時差，統計地図，GIS，大地形とテクトニクス，山地地形，平野地形，海岸地形，その他の地形，地形図と地図記号，地域調査	地理院地図など GIS を利用し，距離の測定，断面図作成などの演習を行う。	２４
第 1 回考査					1
6 7 8 9	地形図 気候 気候区 陸水・海洋	地形図の読図，地域調査の方法を学ぶ。気温降水量など気候要素・因子を理解し気候区を学ぶ。	地形図と地域調査，大気の大循環，気候要素と気候因子，ケッペンの気候区分，世界の気候区，日本の気候区，湖沼と地表水・地下水，海流，気候変動と異常気象，災害と防災	雨温図・ハイサーグラフなどのグラフや分布図の作成などの演習を行う。	１８

第２回考査					1
9 10 11	環境問題 自給的農業 商業的農業	環境問題を考察する。農林水産業について自然条件・社会条件に基づき農業地域を理解する。	地球環境問題，農牧業，自給的農牧業，モンスーンアジアの農業，商業的農牧業，企業的農牧業，プランテーション農業，食糧問題，林業，水産業，日本の農林水産業	環境や食料など地球的課題について探究的な学習も交える。	２ ４
第３回考査					1
12 1 2	鉱産資源 工業立地 工業地域	エネルギー鉱産資源，世界と日本の工業の発達と工業立地，工業地域について理解する。	エネルギー資源，電力，鉱産資源，工業の発達と立地，各種工業，世界の工業地域，国際分業，日本の工業，産業別人口構成と消費活動，	統計資料から有用な情報を把握して地域や産物の特色や課題を読み取る。	２ ４
第４回考査					1
3	商業 観光 交通	世界や日本の第３次産業の発達と地域差を考察する。	商業と消費活動，観光業，世界の交通と通信	商業・交通に関する統計から情報を読み取る。	2

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	GIS，地球の特徴と地図，地域調査，自然環境，産業，地球的な諸課題について理解を深め，人間生活との相関を学ぶ	地理的事象の分布やその特性，成因，人間生活との関わりを多面的，多角的に考察し，諸課題を適切にまとめ，表現できる。	地図や各種統計資料の読み取り，利用方法を身につけ，資料を用いて諸現象を表現できる能力を身につける。
評価方法	4 回の考査などで基礎的･応用的な問題を課し，知識･技能の定着と発展性を見定める。	定期考査後にレポートを課しし，思考･判断･表現の定着と発展性を評価する。	グループ学習，質疑応答，事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。

６　倫理（２単位６４コマ）

１．使用教材

・教科書「高校倫理　新訂版」（実教出版）
・資料集「テオーリア　最新倫理資料集」（第一学習社）
・サブノート「高校倫理　演習ノート」（実教出版）

２．授業年間計画　（2022 年度）

科目	倫理	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分[64 回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高校倫理，実教出版	副教材等		テオーリア最新倫理資料集，第一学習社					
学習の目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて，人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに，人格の形成に努める実践的意欲を高め，他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。								
具体的な取り組み指導上の注意点	人間としての在り方生き方について、おもに古今東西の諸思想の学習をとおして、理解と思索を深める。主体としての自己の確立をめざして、とくに人間の尊厳についての倫理的な考え方を学びとり、人格形成に努める意欲をたかめる。現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断の能力を育てる。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	ギリシア キリスト教 イスラーム	ヨーロッパの哲学の源流について理解を深め、後の西洋思想の土台とする。	哲学の始まり、ギリシア哲学、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム		１４
第１回考査					1
7 8	仏教 中国思想	アジアの哲学の源流について理解を深め、現代日本に生きる我々の思想的ルーツを知る。	インド思想、仏教の展開、諸子百家		１２
第２回考査					1
9 10 11	人間と尊厳 科学技術と人間 民主社会	主にヨーロッパで発展してきた哲学の歴史を知り、様々な価値観に触れる。	ルネサンス、宗教改革、モラリスト、科学革命、経験論、合理論、社会契約説、観念論		１６
第３回考査					1
12 1 2	社会と個人 人間への問い 社会参加	近現代の哲学について学び、現代社会を支える思想について理解を深める。	功利主義、実証主義、プラグマティズム、社会主義、 実存主義、精神分析学、分析哲学、フランクフルト学派、 構造主義、ヒューマニズム、現代の哲学		１６
第４回考査					1

3	古代日本の思想	日本人の思想の原点を知り理解を深める。	アニミズム、日本神話		2

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を,他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し,人格形成に生かす知識として身に付けている。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに，良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して，その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて，人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに，これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け，人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
評価方法	４回の考査などで基礎的・応用的な問題を課し，知識・技能の定着と発展性を見定める。	定期考査内で論述問題を課し，思考・判断・表現の定着と発展性を評価する。	グループ学習，質疑応答，事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。

科目	物理基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	５５分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	考える物理基礎 考える物理基礎舞ノート （全て啓林館）	副教材等		フォローアップドリル物理基礎（数研出版） フォローアップドリル物理（数研出版） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
学習の目標	物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
4	【物理基礎】 第１部物体の運動とエネルギー 第１章　物体の運動	1 速度 2 加速度 3 落体の運動	物体の運動を式・グラフ・ベクトル図で表現する。単位や有効数字など自然現象を記述する基本的な方法を身に着ける。	5 3 4
5 6	第2章　力と運動	1 力とその働き 2 作用反作用の法則 3 力のつり合い 4 運動の法則 5 摩擦を受ける運動 6 液体や気体から受ける力	実験・観察などを通じて様々な力の概念を理解し，図として表現する。運動方程式を用いて，物体に働く力と加速度の関係を理解すること。	2 2 2 5 2 3
	第1回定期考査			1
	第３章 仕事とエネルギー	1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	実験・観察などを通じて力学的エネルギーに関する概念や基本法則を理解し，数式などで記述できるようにすること。	2 2 2 5
7	第２部　熱 第１章 熱とエネルギー	1 熱と物質の状態 2 熱と仕事	熱に関する現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，熱についての基礎的な見方や考え方を身につけること。	2 3
8	第３部　波 第１章　波の性質 第２章　音	1 波と媒質の運動 2 波の伝わり方 3 音の性質 4 発音体の振動と共振・共鳴	波動に関する現象を観察・実験などを通じて探究し，それらの基本劇な概念や法則を理解したり，波動に関する基本的な見方や考え方を理解すること。	3 2 2 3
	第２回定期考査			1
9	第４部　電気と磁気 第１章　静電気と電流 第２章　交流と電磁波	1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電流とエネルギー 4 交流と電磁波	波動に関する現象を観察・実験などを通じて探究し，それらの基本劇な概念や法則を理解したり，波動に関する基本的な見方や考え方を理解すること。	1 1 1 2
	第５部　物理と私たちの生活	1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電	我々の生活と物理学との関係をエネルギーを通して探究・考察すること。	1 2

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート　定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート　定期考査

科目	物理	単位数	2	授業時間 [総時間]	５５分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	考える物理基礎 考える物理基礎舞ノート 物理　改訂版（全て啓林館）	副教材等		フォローアップドリル物理基礎（数研出版） フォローアップドリル物理（数研出版） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
	【物理】			
9	第１部　様々な運動			
	第１章　物体の運動	1 平面運動		3
		2 落体の運動		3
10	第２章　剛体のつり合い	1 剛体のつり合い	運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え	4
	第３章　運動量と力積	1 運動量の保存	方に基づき，物体の運動を観察，実験などを通し	2
		2 反発係数	て探究し，力と運動に関する概念や原理･法則を	4
11	第４章　円運動と単振動	1 円運動	系統的に理解して，それらを活用できるようにす	2
		2 慣性力	る。	2
		3 単振動		3
	第５章　万有引力	1 万有引力		3
	第３回定期考査			1
	第２部　熱			
12	第１章	1 気体の状態方程式	熱に関する現象を観察，実験などを通して探究	2
	気体分子の運動	2 気体分子の熱運動	し，熱に関する基本的な概念や原理･法則を系統	3
		3 熱力学第一法則	的に理解する。	3
		4 気体の状態変化と熱・仕事		3
	第３部　波			
1	第１章　波の性質	1 正弦波の表し方		2
		2 波の伝わり方		4
	第２章　音	1 音の性質	水面波，音，光などの波動現象を観察，実験など	1
		2 ドップラー効果	を通して探究し，共通する基本的な概念や法則を	4
2	第３章　光	1 光の性質	系統的に理解する。	2
		2 レンズと球面鏡		5
		3 光の回折と干渉		7
	第４回定期考査			1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート　定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート　定期考査

科目	理数物理	単位数	4	授業時間 [総時間]	５５分 [128回]	学年	2	理数科
使用教科書	考える物理基礎 考える物理基礎舞ノート 物理　改訂版（全て啓林館）	副教材等		フォローアップドリル物理基礎（数研出版） フォローアップドリル物理（数研出版） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1) 物理学における基本的な概念，原理・法則などについての系統的な理解を深め，科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 物理的な事物・現象に関して，観察，実験などを行い科学的に探究する力を養う。 (3) 自然に対する関心を高め，事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
	【物理基礎】 第１部			
4	物体の運動とエネルギー 第１章　物体の運動	1 速度 2 加速度 3 落体の運動	物体の運動を式・グラフ・ベクトル図で表現する。単位や有効数字など自然現象を記述する基本的な方法を身に着ける。	5 3 4
5	第2章　力と運動	1 力とその働き 2 作用反作用の法則 3 力のつり合い 4 運動の法則 5 摩擦を受ける運動	実験・観察などを通じて様々な力の概念を理解し，図として表現する。運動方程式を用いて，物体に働く力と加速度の関係を理解すること。	2 2 2 5 2
6		6 液体や気体から受ける力		3
	第1回定期考査			1
	第３章　仕事とエネルギー	1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	実験・観察などを通じて力学的エネルギーに関する概念や基本法則を理解し，数式などで記述できるようにすること。	2 2 2 5
7	第２部　熱 第１章　熱とエネルギー	1 熱と物質の状態 2 熱と仕事	熱に関する現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，熱についての基礎的な見方や考え方を身につけること。	2 3
8	第３部　波 第１章　波の性質 第２章　音	1 波と媒質の運動 2 波の伝わり方 3 音の性質 4 発音体の振動と共振・共鳴	波動に関する現象を観察・実験などを通じて探究し，それらの基本劇な概念や法則を理解したり，波動に関する基本的な見方や考え方を理解すること。	3 2 2 3
	第２回定期考査			1
9	第４部　電気と磁気 第１章　静電気と電流 第２章　交流と電磁波	1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電流とエネルギー 4 交流と電磁波	波動に関する現象を観察・実験などを通じて探究し，それらの基本劇な概念や法則を理解したり，波動に関する基本的な見方や考え方を理解すること。	2 2 2 2
	第５部 物理と私たちの生活	1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電	我々の生活と物理学との関係をエネルギーを通して探究・考察すること。	1 2
	【物理】 第１部　様々な運動			

	第１章　物体の運動	1 平面運動		2
		2 落体の運動		2
10	第２章　剛体のつり合い	1 剛体のつり合い	運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え	4
	第３章　運動量と力積	1 運動量の保存	方に基づき，物体の運動を観察，実験などを通し	2
		2 反発係数	て探究し，力と運動に関する概念や原理･法則を	4
11	第４章　円運動と単振動	1 円運動	系統的に理解して，それらを活用できるようにす	2
		2 慣性力	る。	2
		3 単振動		3
	第５章　万有引力	1 万有引力		3
	第３回定期考査			1
	第２部　熱			
12	第１章　気体分子の運動	1 気体の状態方程式		2
		2 気体分子の熱運動	熱に関する現象を観察，実験などを通して探究	3
		3 熱力学第一法則	し，熱に関する基本的な概念や原理･法則を系統	3
		4 気体の状態変化と熱・仕事	的に理解する。	3
	第３部　波			
1	第１章　波の性質	1 正弦波の表し方		2
		2 波の伝わり方		4
	第２章　音	1 音の性質	水面波，音，光などの波動現象を観察，実験など	1
		2 ドップラー効果	を通して探究し，共通する基本的な概念や法則を	4
2	第３章　光	1 光の性質	系統的に理解する。	2
		2 レンズと球面鏡		5
		3 光の回折と干渉		6
	第４回定期考査			1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート　定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート　定期考査

長野県伊那北高等学校

科目	化学	単位数	2	授業時間 [総時間]	５５分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	改訂版　化学 （数研出版）	副教材等		リードα化学（数研出版） フォトサイエンス化学図録　など				
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関した知識を深める。 ・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
4	第２編　物質の変化 ２章 電池と電気分解	1 電池　（実験） 2 電気分解　（実験）	酸化還元反応及び電池電気分解の基本的な概念や法則が理解できる。	7
5	第１編　物質の状態 １章 粒子の結合と結晶	1 原子とイオン 2 イオン結合とイオン結晶 3 分子と共有結合 4 分子間にはたらく力 5 共有結合結晶	化学基礎の学習内容をもとに、物質が粒子から構成されていることを確認する。	3
6		6 金属結合と金属結晶 7 非晶質		6
7	２章 物質の状態変化	1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	物質の三態、およびエネルギーと粒子の間でなりたつ法則を理解できる。	5
8	３章 気体	1 気体の体積 2 気体の状態方程式　（実験）	気体粒子の挙動がイメージできるようにし、周囲の状態との間で成り立つ法則を理解できる。	10
9		3 混合気体の圧力 4 実在気体		
10	４章 溶液	1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質	溶液中の溶質粒子の種類と挙動がイメージできるようにし、溶媒との関係の中で成り立つ法則を理解できる。	11
11		4 コロイド溶液　（実験）		
12	第２編　物質の変化 １章 化学反応とエネルギー	1 化学反応と熱 2 化学反応と光	化学変化の中で出入りする熱や光をエネルギーの観点から考え、未知の反応の熱量が計算によって求められることを理解する。	14
1				
2	３章 化学反応の速さとしくみ	1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応の仕組み	化学反応の速さの違いを理解し、その速さを表し方が理解できる。	5
3	４章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡	可逆反応には平衡状態が存在し、その状態は平衡定数で表すことができることを理解できる。	3

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	化学現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	既知の化学変化から問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	化学変化に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査

9　生物・理数生物

日進月歩の生物学界。「自然科学分野で今最も“熱い”学問は生物学である」と言っても過言ではありません。その“余熱”が高校で取り扱う生物学にも波及しています。教科書には、新たな発見が次々と記載されるのみならず、以前まで正しいとされていた内容が覆った結果、全く正反対の内容が記載されることすらあるのです。

そんな生物学を学べる皆さんはまさに時代の寵児。古い常識を疑い、**新たな発想を目指して**、皆で生物学を大いに楽しみましょう（・・・そうはいっても温故知新は大切。**必要な知識は真摯に学び**、新たな発想の糧としましょう）。

☆普通科

学習計画【生物】

科目	生物	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分[64 回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	改訂版　生物（数研出版）	副教材等	リードα生物（数研出版） スクエア最新図説生物 neo（第一学習社）など						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	1 細胞と分子 2 代謝	タンパク質が生命活動の中心であることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。	・生体物質と細胞 ・生命現象とタンパク質 ・呼吸	【実験】 酵素反応	12
第 1 回考査					1
6 7 8 9	2 代謝 3 遺伝情報の発現	生物の様々な形質の出発点が DNA の塩基配列にあることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。	・光合成、窒素同化 ・DNA の構造 ・DNA の複製 ・遺伝情報の発現	【実験】 クロマトグラフィー	12
第 2 回考査					1
9 10 11	3 遺伝情報の発現 4 生殖と発生	DNA の塩基配列以外にも生物の形質を決める要素があることを理解し、新たな遺伝学が始まっていることを理解する。	・遺伝子の発現調節 ・バイオテクノロジー ・遺伝子と染色体 ・減数分裂		16
第 3 回考査					1
12 1 2	4 生殖と発生	発生の過程における分化を遺伝子発現の調節やタンパク質の機能と関連付けて理解する。	・遺伝子の多様な組み合わせ ・動物の発生 ・植物の発生	【実験】 ウニの発生	16
第 4 回考査					1
3	4 生殖と発生		・まとめ		4

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート　定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート　定期考査

☆理数科

学習計画【理数生物】

科目	理数生物	単位数	4	授業時間[総時数]	55分[128回]	学年	2	学科	理数科
使用教科書	改訂版　生物基礎 改訂版　生物 （数研出版）	副教材等	リードα生物基礎（数研出版） リードα生物（数研出版） スクエア最新図説生物 neo（第一学習社）など						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	1生物の特徴 4植生と遷移 2 遺伝子とそのはたらき	生物の特徴について身に着ける。 生物の共通性を見出す。生物多様性について身につける 遺伝子の構造とはたらきについて身につける。	・生物の共通性と多様性 ・生物とエネルギー ・植生と遷移 ・遺伝情報と DNA ・遺伝情報の発現 ・遺伝情報の分配	負の指数を扱うので、数学と連携を取る。 【実習】 顕微鏡・ミクロメーターの使い方 【実験】 唾腺染色体の観察	25
第1回考査					1
6 7 8 9	3生物の体内環境 5 生態系とその保全	体液のはたらき、腎臓・肝臓のはたらきを身につける。 神経とホルモンによる調節、免疫のしくみについて身につける。 生態系のしくみ、人間生活との関わりを理解する。	・体内環境としての体液 ・腎臓と肝臓 ・神経とホルモンによる調節 ・免疫 ・生態系 ・物質循環とエネルギーの流れ	【実験】 体細胞分裂	25
第2回考査					1
9 10 11	1細胞と分子 2代謝 3遺伝情報の発現	タンパク質が生命活動の中心であることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。 生物の様々な形質の出発点がDNA の塩基配列にあることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。	・生体物質と細胞 ・生命現象とタンパク質 ・呼吸 ・光合成、窒素同化 ・DNA の構造 ・DNA の複製 ・遺伝情報の発現 ・遺伝子の発現調節	【実験】 酵素反応 【実験】 クロマトグラフィー	34
第3回考査					1
12 1 2	3遺伝情報の発現 4生殖と発生	DNA の塩基配列以外にも生物の形質を決める要素があることを理解し、新たな遺伝学が始まっていることを理解する。 発生の過程における分化を遺伝子発現の調節やタンパク質の機能と関連付けて理解する。	・バイオテクノロジー ・遺伝子と染色体 ・減数分裂 ・遺伝子の多様な組み合わせ ・動物の発生 ・植物の発生	【実験】 ウニの発生	34
第4回考査					1
3	4生殖と発生		・まとめ		6

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 実験レポート　定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート　定期考査

長野県伊那北高等学校

科目	地学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	５５分 [６４回]	学年	2	普通科
使用教科書	地学基礎　改訂版 啓林館	副教材等		セミナー　地学基礎 第一学習社				
学習の目標	地学に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質能力を身に着ける。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	・日常生活や社会との連携を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解する。 ・科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に着ける。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
	第１部 固体地球とその変動	・地球の概観	地球の構造、活動について身につける。	2
		・地球の内部構造		2
		・プレートテクトニクス		2
		・地震		3
		・火山		3
		・災害とハザードマップ		2
		・固体地球まとめ		2
		＜第１回考査＞		1
	第２部 移り変わる地球	・堆積岩と変成岩	地層や地球史について身につける。	3
		・地層と地質構造		3
		・地球史		4
		・地層と地球史まとめ		2
		＜第２回考査＞		1
	第３部 大気と海洋	・大気圏	大気と海洋の構造、運動について身につける。	2
		・水と気象		2
		・太陽放射と地球放射		3
		・大気の大循環		3
		・海水の循環		2
		・日本の天気		2
		・地球環境と人間生活		2
		・大気と海洋まとめ		2
		＜第３回考査＞		1
	第４部 宇宙の構成	・太陽系	宇宙の姿と時間的な変化について身につける。	3
		・太陽		2
		・恒星		3
		・銀河		2
		・宇宙の構造		2
		・宇宙まとめ		2
		＜第４回考査＞		1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査	発言・質問 定期考査

長野県伊那北高等学校

科目	理科探究	単位数	2	授業時間［総時間］	５５分［６４回］	学年	2	普通科
使用教科書	改訂版　生物基礎（数研出版）／地学基礎　改訂版（啓林館）	副教材等		リードα生物基礎（数研出版）/地学基礎探求ノート（数研出版）				
学習の目標	分野にとらわれず様々な自然現象を取り扱うことで、社会で必要な論理的思考や科学的な視点を養う。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	・生物、地学に関わる現象を中心に、様々な自然現象を理解するための基礎知識を学ぶ。 ・科学的な視点を身に付けるための実験や観察などの実習を行う。 ・論理的思考を養うためのグループワーク、思考学習を行う。 ・これらの能力を評価できるよう、定期考査の問題やレポートを設定する。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
4〜3	生物基礎と地学基礎の内容を中心に、単元を分けずに科学全般を学ぶ	・生物って何？ ・ウイルスは生物？ ・細胞はなぜ小さい？ ・生体維持システム総論 ・生体維持システム各論 ・あなたはわたし？つながる生命 ・わたしはあなた？ことなる生命 など、以上は生物基礎に関わる分野	生物の普遍性と多様性を見出し、俯瞰的な視点から理解して説明することができるようになる。	24
		・ベクトルと三角比 ・次元解析 ・比例計算の活用方法 など、以上は理科一般で使う内容	理科的発想の基本となる計算や解析方法を理解して使いこなせるようになる。	12
		・地球の大きさを測ろう ・地球は完全な球ではない？ ・震源の位置を予測しよう ・地形図からリニアメントを読み取ろう ・１０mのチューブで水を吸い上げる？ ・世界地図から気圧帯を見抜く ・三角測量を使った距離の計測 ・地球が宇宙の中心でないことの証明 ・オリジナルハザードマップを作ろう など、以上は地学基礎に関わる分野	地球や宇宙にまつわる基本知識を使って、日常に潜む疑問を、自らのアプローチで解決する。	28

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自然科学の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然科学の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然科学の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	小テスト レポート 定期考査	レポート 定期考査	発言・質問 レポート 定期考査

令和４年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	体育	単位数	3	授業時間[総時数]	５５分［９６回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	現代高等保健体育（体育理論）	副教材等	なし						
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を身に付ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ・課題の解決に向けて思考・判断し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を身に付ける。 ・公正、協働、責任、参画などの態度を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ力を身に付ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4	体つくり運動	・健康、安全の確保とフェアなプレイ態度の育成 ・体力の向上を図ることのできる能力の育成と各種目技能の向上 ・個人技能の向上と集団における高度な動きの習得 ・課題解決におけるPDCAサイクルの習得	・体ほぐしの運動		6
			・スポーツテスト		5
5	球技Ⅰ		・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、ﾃﾆｽから１種目選択		10
6	ダンス		・現代的なリズムのダンス		6
7	球技Ⅱ		・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、ﾃﾆｽから１種目選択		10
8	体育理論		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方		4
9	球技Ⅲ		・ｻｯｶｰ、ﾃﾆｽ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰから１種目選択		10
10	陸上競技		・競走（長距離走）		8
11	球技Ⅳ		・ｻｯｶｰ、ﾃﾆｽ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰから１種目選択		11
12	球技Ⅴ		・ﾊﾞｽｹｯﾄ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、卓球、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂから１種目選択		11
1	球技Ⅵ		・ﾊﾞｽｹｯﾄ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、卓球、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂから１種目選択		11
2	体育理論		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方		4

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①ゲーム中での技能発揮 ②種目における体力向上 ③技能の観察と分析力 ④空間を作る動き	①合理的な動きや運動成果、改善点を仲間に伝える力 ②自己に適した運動の関わり方と合意形成への貢献	①主体的に取り組む姿勢 ②健康安全への理解 ③相手を尊重する態度やフェアなプレイ態度、協調性
評価方法	各種目において、ゲームや技能テストを観察で評価する。	ゲームや技能テストでの観察。グループノートの提出がある種目は、内容でも評価。	出席を評価。観察でも評価する。

令和４年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	体育	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分［６４回］	学年	2	学科	理数科
使用教科書	現代高等保健体育（体育理論）	副教材等	なし						
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を身に付ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ・課題の解決に向けて思考・判断し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を身に付ける。 ・公正、協働、責任、参画などの態度を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ力を身に付ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4	体つくり運動	・健康、安全の確保とフェアなプレイ態度の育成 ・体力の向上を図ることのできる能力の育成と各種目技能の向上 ・個人技能の向上と集団における高度な動きの習得 ・課題解決におけるPDCAサイクルの習得	・体ほぐしの運動		3
			・スポーツテスト		3
5	球技Ⅰ		・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、ﾃﾆｽから１種目選択		7
6	ダンス		・現代的なリズムのダンス		4
7	球技Ⅱ		・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、ﾃﾆｽから１種目選択		7
8	体育理論		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方		3
9	球技Ⅲ		・ｻｯｶｰ、ﾃﾆｽ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰから１種目選択		7
10	陸上競技		・競走（長距離走）		6
11	球技Ⅳ		・ｻｯｶｰ、ﾃﾆｽ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰから１種目選択		7
12	球技Ⅴ		・ﾊﾞｽｹｯﾄ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、卓球、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂから１種目選択		7
1	球技Ⅵ		・ﾊﾞｽｹｯﾄ、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、卓球、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂから１種目選択		7
2	体育理論		・運動やスポーツの効果的な学習の仕方		3

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①ゲーム中での技能発揮 ②種目における体力向上 ③技能の観察と分析力 ④空間を作る動き	①合理的な動きや運動成果、改善点を仲間に伝える力 ②自己に適した運動の関わり方と合意形成への貢献	①主体的に取り組む姿勢 ②健康安全への理解 ③相手を尊重する態度やフェアなプレイ態度、協調性
評価方法	各種目において、ゲームや技能テストを観察で評価する。	ゲームや技能テストでの観察。グループノートの提出がある種目は、内容でも評価。	出席を評価。観察でも評価する。

令和４年度シラバス【保健】

長野県伊那北高等学校

科目	保健	単位数	1	授業時間[総時数]	５５分［３２回］	学年	2	学科	普通科理数科
使用教科書	現代高等保健体育	副教材等	なし						
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身に付ける。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、その技能を身に付ける。 ・自他や社会の課題を発見し、課題の解決に向けて思考・判断し、他者に伝える能力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他や社会の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かなで活力ある生活を営む態度を身に付ける。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6 7 8 9	生涯を通じる健康	・生涯を通じる健康について理解を深めることができるようにする。 ・課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったりノートに記述したりして筋道を立てて説明することができるようにする。	①生涯の各段階における健康 ・思春期と健康 ・結婚生活と健康 ・加齢と健康 ②労働と健康 ・労働災害と健康 ・働く人の健康の保持増進	生物と連携 情報と連携	10 9
第２回考査					1
10 11 12 1 2	健康を支える環境づくり	・健康を支える環境づくりについて理解を深めることができるようにする。	①環境と健康 ②食品と健康 ③保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ④様々な保健活動や社会的対策 ⑤健康に関する環境づくりと社会参加		3 3 2 2 2
第４回考査					1

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①現代社会と健康、安全な社会生活について理解を深めている ③応急手当を適切に行うことができる	①自他や社会の課題解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ワークシート等に記述したりして道筋を立てて説明できる	①主体的に取り組む姿勢 ②話し合いへの参加 ③主体的に自ら学び、課題解決のために調べたり、書き出したりしている。
評価方法	考査で評価。	考査で評価。観察及びワークやノートによる評価もある。	出席を評価。観察及びワークやノートによる評価もある。

授業を受ける上での留意点

＜体育＞

1　実技科目の特性上、出席を特に重視します。遅刻（開始から 20 分以内）は 3 回で欠席 1 とする。
　また、各種目 3 回以上の欠席は、評価に関わります。
2　病気、怪我等で長期間にわたって授業を欠く場合は、診断書等の提出が必要な場合があるので、教科担任に相談すること。見学については、教科担任に授業前に申し出て、指示を受けること。
3　意欲的に活動するだけでなく、準備運動や服装など健康安全についての理解も重視すること。
4　上下履きの区別、体育館シューズと上履きの区別、運動のできるジャージの着用等、ルールを守ること。
5　施設・用具を大切に使用し、使用後は必ず返却し、清掃等を行うこと。

＜保健＞

1　出席を重視します。遅刻（開始から 20 分以内）は 3 回で欠席 1 とする。
　また、半期 3 回以上の欠席は、評価に関わります。
2　年 2 回の定期考査を行います。
3　レポートを課すこともあります。

長野県伊那北高等学校

科目	音楽Ⅱ	単位数	2	授業時間［総時間］	５５分［６４回］	学年	2	普通科
使用教科書	高校生の音楽2（教育芸術社）	副教材等		愛唱歌集（長野県高等学校音楽教育研究会）				
学習の目標	音楽の諸活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。							
具体的な取り組み・指導上の注意点	様々なテーマを元に、音楽と人間の営みの関わりについて考えていく。その中で 1、西洋クラシック音楽史　2、日本の伝統音楽　3、世界のポ諸民族の音楽　について学ぶ。 音楽系に進学を考えている生徒が履修している場合は、楽典やソルフェージュなども扱う。							

月	単元名	学習内容	目標	時数
4 5	音楽のはじまり	・音楽の起源とは ・ローマ時代にできた初めての音楽学校 ・神から人へルネサンス ・教会音楽と世俗音楽 ・オペラの誕生 ・日本最古の音楽	様々な音楽が誕生した歴史的背景を知り、原始的な音楽の始まりについて考えることができる。	15
6 7	祈りと音楽	・キリスト教と音楽 ・神道と音楽 ・仏教と音楽	様々な信仰と音楽の関わりを考え、それぞれの音楽に触れる。	15
	愛と音楽	・愛を語る吟遊詩人 ・ロマン派の歌曲	愛を語る様々な音楽に触れ、表現の違いを知り、演奏をする。	
8 9 10	民族と音楽	・音楽はドレミがすべてか ・ワールドミュージックの世界	非西洋音楽の音楽の世界を知る。	15
	声と音楽	・様々な声 ・ヨーロッパの声 ・アジアの声	声の表現の多様性を知り、様々な歌唱表現に挑戦をする。	
11 12	テクノロジーと音楽	・産業革命と音楽 ・デジタルと音楽	テクノロジーの発達と音楽の発達の関わりを知る。	15
	映像と音楽	・舞台芸術の音楽 ・映画、ドラマと音楽	古今東西の様々な舞台芸術を知る。 映像の中の音楽の効果を理解する。	
	現代人と音楽	・身の回りの音楽 ・音楽とは何か	これまでの学習も踏まえ、音楽と人間の関わりについて考える。	
1 2	ソルフェージュ	・聴音 ・新曲視唱	履修者の実情に合わせて課題に取り組む。音楽大学等への進学予定者は入試問題に対応できる力をつける。	14
	楽典	・楽典 ・入試問題演習		

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 ②音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している	①音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 ②音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	①音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。 ②自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしているか。
評価方法	プリント課題 小テスト 実技テスト	小テスト 練習の取り組み 実技テスト	プリント課題 質問 練習の取り組み

長野県伊那北高等学校

科目	美術Ⅱ	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分［６４回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高校生の美術２（日本文教出版）	副教材等	なし						
学習の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。								
・具体的な取り組み ・指導上の注意点	○スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分に高まるよう配慮する。 ○主題の生成から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、自分の良さを発見し喜びを味わい、自己実現を果たしていく態度の形成を図る。 ○造形の要素の働きを理解すること。 ○造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。 ○アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにする。								

月	題材・内容	学習のねらい・内容	指導目標	時数
4 5 6	1，メタルのネームプレート ・ロゴタイプのデザイン ・銅箔を用いたプレート作り 2，4コマ写真～複数の写真で表す ・連続写真による物語の表現 ・撮影方法と効果的な表現	○様々な文字のデザインの工夫を知り、情報やイメージを効果的に伝える文字を考えよう ○複数の写真を組み合わせることから生まれる効果を生かし、表したいテーマを創造的に表現する。	・社会におけるデザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。 ・映像表現の視覚的な要素などの効果的な生かし方について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。	１４
第１回考査				
6 7 8 9	3，社会に訴えるポスター ・応用的なグラフィックデザイン ・主題と意図を効果的に表現する	○目的や条件を基に、テーマが豊かに伝わるポスターを描く。	・目的や条件などを基に、人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、主題を生成する。 ・主題に沿った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す。	１４
第２回考査				
9 10 11	4，彩色木版画 ・物語の世界　感動を表す ・版画表現の技法の習得	○木版画の味わいに注目し、堀や色彩の効果を考えて表そう。	・自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成する。 ・技法の特徴を生かして創造的に表す技能。	１８
第３回考査				
12	5，生活の中のデザイン	○使う人、用途、場面、気持ち	・社会におけるデザインの機能	１８

1 2	・身近な道具をデザインする ・材料の特性と加工方法	などを考えて形作られたデザインにどんな工夫が施されているかを理解する。	や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。 ・素材を生かして創造的に表す技能。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めた。 意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育んだ。 感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育んだ。
評価方法	作品・レポート	作品・レポート・プレゼンテーション	制作に向かう姿勢・提出物・出席の状況

1．学習を始めるまえに

美術の内容は鑑賞と造形表現に大別することができます。

鑑賞とは五感を通じて様々のことやものを捉える試みです。これは美術作品ばかりでなく、色んなこと、色んなものに触れたとき、考えたことや思ったことを言葉にする行為です。それは、ちょっとした心地良さや違和感でも発見でも良いのです。自分の受け取ったなにかを言葉に置き換えて発信してみましょう。

造形表現とは自分の考えや思いや感情など内面に存在するものを何らかのかたちで(作品として)表し伝えることです。表現とは創造であり、創造とはなにかを生み出す行為です。
受け身では何も生まれません。自らアクションを起こして自分の可能性を探究し、自らを解き放ち、理想のかたち目指して挑戦しましょう。

美術の学習では、鑑賞(インプット)と表現(アウトプット)と、そのやりとりの中で個性を確立し、自分が唯一無二の存在であることを実感してほしいのです。そして、人間や社会を豊かにするものの見方・考え方、発見や発明、感情や意思の伝達において、この鑑賞と表現とそれらの交流が原動力になっていることを学んでほしいのです。

2．美術系大学進学希望者へ

『好きこそものの上手なれ』とにかく造ることや描くことや観ることが好きであれば美大生になる素質は充分ある。アートやデザインは深く我々の生活に密接しています。いや生活そのものと言って過言ではないでしょう。現在、美術系大学卒業生の多くが芸術家やデザイナーやクラフトマン、映像作家、建築家、職人、美術教師、学芸員などとして社会の中で活躍をしています。あなたの夢を実現するために、そしてあなたの表現やアイデアを社会が待ちわびているのです。

美術系大学の入試では学科試験に加え実技試験が科せられます。実技試験の内容は大学や学部によって様々で異なりますが、かなりのレベルを要求されます。そのため、美大・芸大受験は相当のエネルギーを必要とし、妥協しない美の追究と自分探しの修練とも言うことができます。この美大受験の醍醐味を楽しめた時きっと次のステップに進むことができるはずです。美大を目指すのであれば、とにかくアクションを起こしましょう。そのことによって、今自分に何が必要か自身の作品があなたに語りかけてくれるはずです。美術系大学への進学希望者またはそれを選択肢の一つに考えている人は早めに教科担当者（芸術研究室）に相談に来てください。

令和４年度シラバス【情報の科学】

長野県伊那北高等学校

科目	情報の科学	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分［６４回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	改訂版　高等学校 情報の科学	副教材等		なし					
学習の目標	現在の社会では、数多く存在する情報を見極める能力や適正に活用する能力・情報を適切に発信する能力が求められています。そのために、情報社会を支える情報技術の役割や影響を知り、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を学習していきます。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	・日常生活や社会との連携を図りながら、情報社会について科学的に理解する。 ・大学・社会人生活で生きる情報活用能力の向上を図る。 ・年間を通して情報のインプットとアウトプットを重視し、他者が理解しやすいデザインを考える。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	第４編	情報社会を生きていく上で必要な知識やモラルを学習する。	・情報社会の光と影 ・情報セキュリティの確保 ・情報社における法と個人責任		13
6 7 8 9	第２編	情報の伝達手段や方法について学習する。	・コミュニケーション手段の発達 ・インターネットの仕組み		13
9 10 11	序編	情報とは何か、基本的な知識を身に着ける。	・情報とは ・メディアとは ・情報のディジタル化 ・インターネットの活用		17
12 1	第１編	様々な情報のディジタル方言やコンピュータの仕組みについて学習する	・コンピュータの仕組み ・情報のディジタル表現		17
2	第３編	インターネットや書籍等を利用し、問題の発見から解決までの手順を身に着ける	・問題解決 ・問題の解決と処理手順の自動化 ・データベース	総合的な探求の時間と連携して行う	4

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	コンピュータの仕組みや通信技術の仕組みを理解している。Word,Excel,PowerPoint 等のソフトウェアを扱えている。	問題の発見から解決に向けての手段を最適化できているか。制作物のレイアウト等が見やすくできているか	主体的に取り組む姿勢
評価方法	制作物、小テスト	制作物、発表	授業態度、出席

令和４年度シラバス【総合的な探究の時間】

長野県伊那北高等学校

科目	総合的な探究の時間	単位数	1	授業時間［総時数］	５５分［３２回］	学年	2	学科	普通科
使用教科書	なし	副教材等		課題研究メソッド Start Book 改訂版（啓林館）					
学習の目標	（1）探究に関わる基本的な資質・能力を身につける。 （2）地域や社会・もの・ことと自分自身の関わりから問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報を元に分析したりする力を身につけるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身につける。 （3）探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いの良さを活かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようという態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	（1）興味・関心の深い分野について、ＳＤＧｓを踏まえた課題を個人で設定する。 （2）フィールドワーク、アンケート、インタビュー等をすることで課題解決に必要な知識・技能を得る。 （3）研究結果をまとめ、プレゼンをする。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4 5 6	ＳＴＥＰ１ 課題研究に向けて	ＳＤＧｓを踏まえた自分の興味・関心のある課題を設定する	・自己分析 ・ＳＤＧｓを理解する ・テーマ設定について ・問の立て方 ・問に対する仮説 ・情報収集のしかた		6
7 8 9	ＳＴＥＰ２ 課題研究Ⅰ	探究力をつける	・批判的思考力 ・情報収集、分析力 ・論理的思考力	中間発表を行う	9
9 10 11	ＳＴＥＰ３ フィールドワーク	見学や体験活動を通し、課題への理解を深める 新たな問を立てる	・フィールドワークの意義 ・インタビュー、アンケート、調査のしかた	中間発表を行う	１５
12 1 2	ＳＴＥＰ４ 課題研究Ⅱ・発表会	１年間の成果を発表会で発表する	・効果的なプレゼンの方法 ・優れた発表の共有		１０
3	ＳＴＥＰ５ まとめ	振り返り	・研究活動の意義の確認		2

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	SDGs の 17 の課題を理解しているか。課題の解決に必要な知識・技能を総合的、横断的に身につけているか。	自己と社会が結びついた課題が設定されているか。課題を総合的、論理的に考察できているか。探究の成果をわかりやすくまとめ、発表できているか。	情報の収集や分析、調査・実験などを積極的に行っているか。

評価方法	・探究シートなどを集積したポートフォリオによる評価。 ・成果物における評価。

令和４年度シラバス【課題研究】

長野県伊那北高等学校

科目	課題研究	単位数	2	授業時間[総時数]	５５分［６４回］	学年	2	学科	理数科
使用教科書	なし	副教材等	課題研究メソッド 2ndEdition（啓林館）						
学習の目標	（１）課題研究を通して特定分野の専門的知識を身につけるとともに、自らの研究が過去の研究や現在の生活と密着していることを理解する。【知識・理解】 （２）課題研究を通してそれぞれの専門分野を中心とした科学全般に関心を持ち、自然現象や数学について、科学的な観点から問いを見出し、解決するための力を身に着ける。【関心・主体性・多様性】 （３）問を解決するための検実験を行い、得られた結果から適切な考察を導く。また、その結果を論文執筆やプレゼンテーションの場面で適切な方法を用いて表現することができる。【思考力・判断力・表現力】								
具体的な取り組み・指導上の注意点	(1) 先行研究調査を行う。研究倫理を知る。 (2) 問いを立て、問いに対する結論をえるための実験計画を組み立てる。 (3) 実験計画が(2)に対して有効なものになるようにする。 (4) 考察と結論が科学的根拠を十分に備えているようにする。								

月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数
4〜6	ＳＴＥＰ１ 課題研究に向けて	・グループに分かれ、課題の設定を行う。	・グループ分け ・課題設定（先行研究調査・研究計画・予備実験などを含む） ・研究計画発表会	研究分野は 物理・化学・生物・地学・数学である。	18
7〜12	ＳＴＥＰ２ 課題研究Ⅰ	・課題研究実施する。実験を計画、実行し、得られたデータに対し論理的に考え、結論を導く。。	・課題研究実施 ・課題研究の方法 ・情報共有 ・中間発表（11 月）		28
1	ＳＴＥＰ３ 課題研究Ⅱ 研究発表会	・１年間の成果を発表会で発表する。	・効果的なプレゼンの方法 ・優れた発表の共有		15
2 3	ＳＴＥＰ４ 振り返り	・報告集をまとめる	・論文の作成方法		3

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・理数に関わる学習対象について、知識を身につけ、総合的見方・考え方ができているか。	・問いと実験方法と結論の間に論理性があるか。 ・適切に成果をまとめて発表しているか。	・情報の収集や分析を、関心を持って主体的に行っているか。

評価方法	・論文による評価。 ・プレゼンテーション・ポスター発表による評価。 ・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。 ・出席状況。

２年　　組　　番	氏 名